

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ゼミナール I 前 (Seminar 1)					担当教員	複数人		
科目コード	261042-14000								
科目区分	ゼミナール科目	必修・選択区分	必修	単位数	1	配当年次	1年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要
<p>ホームルーム的役割を持ちつつ、(1)大学のスタディスキル基礎の習得、(2)数学的能力の向上、(3)「社会人基礎力」の向上、を目標とする授業である。</p> <p>(1)については、(A)大学の授業の受け方の理解、(B)大学の各種学習支援施設・サポートなどの活用法の理解など、(C)レポート・レジュメ作成法習得、を目指す。</p> <p>(2)については、米百俵ドリルの数学の活用などにより基礎計算の振り返りと定着を図る。</p> <p>(3)については、論理的思考トレーニングや SPI（推論等）活用の演習などに取り組む。</p>
② ディプロマ・ポリシーとの関連
<p>地域社会に貢献する姿勢/職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力/コミュニケーション能力/情報収集・分析力を育成する授業である。</p>
③ 授業の進め方・指示事項
<p>毎回、配布資料により解説を行い、演習問題による理解の確認と知識定着を進める。期末試験に加えて数回の小テストにより、平素からの学びの成果を確認する。</p>
④ 関連科目・履修しておくべき科目
<p>「ゼミナール I 後」「キャンパスライフ入門」</p>
⑤ 標準的な達成レベルの目安
<p>(i) 大学のスタディスキル基礎を習得できた。</p> <p>(ii) 数学的能力が向上できた。</p> <p>(iii) 「社会人基礎力」を向上できた。</p>
⑥ テキスト（教科書）
<p>山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、その他、必要に応じて資料・レジュメ等を配布する。</p>
⑦ 参考図書・指定図書
<p>佐藤智明,矢島彰,山本明志編(2014)『大学学びのことはじめ初年次セミナーワークブック 3 訂』ナカニシヤ。その他、新書リストの図書。</p>

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート、レジュメ等	発表・実技	授業への参加・意欲	米百俵ドリル「数学」	合計
総合評価割合		8%	20%	20%	20%	20%	12%	100%
(i)大学のスタディスキル基礎			10%	20%	20%	20%		70%
(ii)数学的能力向上		8%					12%	20%
(iii)社会人基礎力			10%					10%
フィードバックの方法	小テストの採点結果、課題・発表等に対する評価は、その都度個別にフィードバックする。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
授業で取り組んだ各項目について、レポートやその他の課題等により随時習得度を確認しながら授業を進める。数学的能力の向上、スタディスキル基礎の習得、社会人基礎力の向上について、全ゼミで歩調を合わせて取り組んでいく。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	アイスブレイク、オリエンテーション、自己紹介	筆記用具	次回授業内容の予習課題への取り組み	60分
2	大学での学びの基本①（概要、施設等活用法）	筆記用具、教科書	予習課題への取り組み	90分
3	大学での学びの基本②（ノートのとり方）、スピーチの解説	筆記用具、教科書	ノート作成・スピーチ等の予習課題への取り組み、米百俵ドリル	90分
4	大学での学びの基本③（レポート作成法）、スピーチの実習	筆記用具、教科書	レポート作成・スピーチ準備の予習課題への取り組み	90分
5	大学での学びの基本④（レジュメ作成法）、レジュメを使ったスピーチの準備	筆記用具、教科書	レジュメ作成・スピーチ準備の予習課題への取り組み、米百俵ドリル	90分
6	大学での学びの基本⑤（論理的思考の解説）、レジュメを使ったスピーチの準備と練習	筆記用具、教科書	論理的思考・スピーチ準備の予習課題への取り組み	90分
7	大学での学びの基本⑥（論理的思考の演習）、レジュメを使ったスピーチ実習	筆記用具、教科書	論理的思考・スピーチ準備の予習課題への取り組み、米百俵ドリル	90分
8	基礎計算①、グループワーク・スピーチ実習等	筆記用具、教科書	基礎計算の予習課題への取り組み、スピーチ準備	90分

9	基礎計算②、グループワーク・スピーチ実習等	筆記用具、教科書	米百俵ドリル、基礎計算テストへの準備、スピーチ準備	90分
10	基礎計算③、グループワーク・スピーチ実習等	筆記用具、教科書	基礎計算テストへの準備、スピーチ準備	90分
11	基礎計算④、グループワーク・スピーチ実習等	筆記用具、教科書	米百俵ドリル、基礎計算テストへの準備、スピーチ準備	90分
12	基礎計算⑤、グループディスカッション①（解説・テーマ設定等）	筆記用具、教科書	基礎計算テストへの準備、グループディスカッション準備	90分
13	グループディスカッション②（準備、試行）	筆記用具、教科書	米百俵ドリル、グループディスカッション準備	90分
14	グループディスカッション③（実施、発表）	筆記用具、教科書	グループディスカッション準備	90分
15	全体の振り返り	筆記用具、教科書	各回授業のポイントの振り返り	90分

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL を採用する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅠ後（Seminar 1） 261043-14000					担当教員	複数人		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	1	配当年次	1年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型 AL／協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要
<p>ホームルーム的役割を持ちつつ、(1)調査研究の進め方、(2) 調査研究の成果表現法、(3)「社会人基礎力」向上、の実現を目標とする授業である。2年次以降の様々な専門授業において、調査研究を進めてその成果の取りまとめることができるようになることを目指す。</p> <p>(1)と(2)については、入門的な調査研究を進めて、期末にレジユメないしレポートを用意し、授業内でスピーチを実施すること目標とする。</p> <p>(3)については、前期ゼミに引き続き、社会人基礎力向上にむけたグループワーク等に取り組む。あわせて、米百俵ドリル等により国語・社会の基礎知識の醸成も図る。</p>
② ディプロマ・ポリシーとの関連
<p>地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を育成する授業である。</p>
③ 授業の進め方・指示事項
<p>毎回、調査研究の進め方、成果の整理とプレゼンテーションなどに関して配布資料等により解説を行い、その内容にもとづいて各自が実践する。期末のレポート完成とプレゼンテーション実施に向けて、適宜課題を課し、平素からの学びの成果を確認する。米百俵ドリルなどを用いた時間外の課題へも取り組む。</p>
④ 関連科目・履修しておくべき科目
<p>「ゼミナールⅠ前」「キャンパスライフ入門」「キャリア開発Ⅰ」</p>
⑤ 標準的な達成レベルの目安
<p>(i) 調査研究の進め方を習得し、調査研究のレポートないしレジユメを作成できた。</p> <p>(ii) 調査研究の成果をスピーチにより発表できた。</p> <p>(iii) 「社会人基礎力」および国語・社会の基礎知識を向上した。</p>
⑥ テキスト（教科書）
<p>山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、その他、必要に応じて資料・レジユメ等を配布する。</p>
⑦ 参考図書・指定図書
<p>佐藤智明,矢島彰,山本明志編(2014)『大学学びのことはじめ初年次セミナーワークブック 3 訂』ナカニシヤ。その他、新書リストの図書。</p>

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法							
具体的な学習到達目標	試験	振り返り 小テスト 等	課題	レポート /レジュ メ	授業での 発表、参加 意欲等	その他 (米百俵 ドリル)	合計
総合評価割合			40%	20%	28%	12%	100%
(i) 調査研究の進め方の習得と実践			20%		10%		30%
(ii) 調査研究の成果とりまとめと発表			20%	20%	10%		50%
(iii) 「社会人基礎力」、国語・社会の基礎知識向上					8%	12%	20%
フィードバックの方法	課題・発表等に対する評価は、その都度個別にフィードバックする。						

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
各自が2年次以降の様々な専門授業において調査研究を進める能力を醸成できるよう、全ゼミで歩調を合わせて取り組んでいく。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	オリエンテーション、自己紹介	筆記用具	次回授業内容の予習課題への取り組み グループワークの準備	60分
2	課題発見力①（概要、課題発見の方法、研究の問の立て方）、グループワーク/ディスカッション（その1）	筆記用具、教科書	レポートで取り組む分野・範囲を絞る。テーマを検討する。 米百俵ドリル①	90分
3	課題発見力②（テーマ設定）	筆記用具、教科書	各自がレポートで取り組む分野・範囲を絞りテーマを検討する。 米百俵ドリル②	90分
4	情報収集法①（概要、文献検索と情報収集）	筆記用具、教科書	授業で取り上げた情報収集法によりレポートテーマに関連する情報を収集する。 グループワークの準備 米百俵ドリル③	90分
5	情報収集法②（図書館活用法、	筆記用具、教科	授業で取り上げた情報収集法によ	90分

	インターネット情報活用法) グループワーク／ディスカッション (その2)	書	りレポートテーマに関連する情報を収集する。 米百俵ドリル④	
6	情報収集法③ (ヒアリング、アンケート等の調査法について)	筆記用具、教科書	授業で取り上げた調査法 (ヒアリング、アンケート等) の復習 米百俵ドリル⑤	90分
7	情報整理法 (概要、書類等の整理と管理、PC による情報管理法)	筆記用具、教科書	Word、Excel 等を活用し、これまで収集したレポート関連の情報を整理する。 グループワークの準備 米百俵ドリル⑥	90分
8	データ分析法① (基本的なグラフ作成、グラフ読み取り) グループワーク／ディスカッション (その3)	筆記用具、教科書	グラフに関する授業内容の復習とグラフ作成の課題に取り組む。 米百俵ドリル⑧	90分
9	データ分析法② (統計の基本：代表値について)	筆記用具、教科書	代表値等に関する授業内容の復習と関連の課題に取り組む。 米百俵ドリル⑨	90分
10	データ分析法③ (統計の基本：ちらばり等について)	筆記用具、教科書	ちらばり等に関する授業内容の復習と関連の課題に取り組む。 グループワークの準備 米百俵ドリル⑩	90分
11	データ分析法④ (統計の基本：数値データの処理のまとめ) グループワーク／ディスカッション (その4)	筆記用具、教科書	データ処理に関する授業内容の復習と関連の課題に取り組む。 米百俵ドリル⑪	90分
12	レポート作成とプレゼンテーションの準備① (レポート作成法の振り返りと実践)	筆記用具、教科書	レポート作成法の振り返り、レポート作成。 米百俵ドリル⑫	90分
13	レポート作成とプレゼンテーションの準備② (プレゼンテーションの準備、レジュメ作成法の振り返りと実践)	筆記用具、教科書	レポート作成の継続、プレゼンテーションの内容・組み立ての検討、レジュメ作成の準備	90分
14	レポート作成とプレゼンテーションの準備③ (プレゼンテーション内容の組み立て、レジュメ作成、発表練習)	筆記用具、教科書	レポート作成の継続、プレゼンテーションの内容・組み立ての検討、レジュメ作成	90分

15	レジюмеに基づいた調査レポートの発表、全体振り返り	筆記用具、教科書	レポートとレジюмеの完成、発表練習、これまでの授業のポイントの振り返り	90分
----	----------------------------	----------	--------------------------------------	-----

⑪ アクティブラーニングについて				
知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL を採用する。				

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の概要				
実務経験と授業科目との関連性				

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ゼミナールⅡ（SeminarⅡ）					担当教員	複数人		
科目コード	262044-14000								
科目区分	ゼミナール科目	必修・選択区分	必修	単位数	2	配当年次	2年次	開講期	通年
科目特性	知識定着・確認型 AL／協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要
ホームルーム的役割を持ちつつ、1年次のゼミナールⅠ前・後で修得した知識と能力を土台として、(1) 情報収集能力と文章作成能力の向上、(2) 自己表現力の向上、(3) 論文作成能力の向上、を目標とする授業である。(1)については、文章の書き方の基本、情報収集の基礎と実践、文章作成の訓練、レポート作成、基本論理思考トレーニング等に取り組む。(2)については、ディスカッションやスピーチに取り組む。(3)については、修了レポートの完成に取り組む。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を育成する授業である。
③ 授業の進め方・指示事項
ゼミナールⅠ前・後などで培った文章作成能力を発展・応用し、その成果として修了レポートを完成させる事を中心的な目標とする授業である。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
ゼミナールⅠ前、ゼミナールⅠ後
⑤ 標準的な達成レベルの目安
(i) 文献等で調べた内容を適切に文章・レジュメ・レポートにまとめることができる。 (ii) 論文（修了レポート）作成手法の基本およびその成果等を他者に説明できる。 (iii) 論文（修了レポート）を完成し、調査・研究の成果をまとめることができる。
⑥ テキスト（教科書）
山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、その他、必要に応じて資料・レジュメ等を配布する。
⑦ 参考図書・指定図書
授業において適宜紹介する。

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			22.5%	35%	20%	22.5%		100%
(i) 文献等で調べた内容を適切に文章・レジюме・レポートにまとめる			12.5%	7.5%		10%		30%
(ii) 論文作成手法の基本およびその成果の説明			5%	7.5%	10%	10%		32.5%
(iii) 論文を完成			5%	20%	10%	2.5%		37.5%
フィードバックの方法	提出された課題、レポート等に助言をつけて返却する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
3・4年次の専門的な学びのための論文作成能力の向上に向けて、修了レポート（論文）作成が最も重要な目標になる。学修内容の全般について、全ゼミで歩調を合わせて取り組んでいく。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	イントロダクション、スケジュール、学習内容の確認	教科書	学習内容に関するレポート	120分
2	スピーチ、レジюмеの書き方	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
3	スピーチ、レポート作成能力向上（文献・資料引用上の注意）	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
4	レジюмеを用いた討論	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
5	スピーチ、レポート作成能力向上（引用・参考の方法）	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
6	レジюмеを用いた討論	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
7	スピーチ、レポート作成能力向上（引用・参考の方法）	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
8	情報収集トレーニング	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
9	スピーチ、レポート作成能力向上（テーマ設定）	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分

10	レジユメを用いた討論スピーチ・レポート作成能力向上（テーマの発表）	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
11	スピーチ、レポート作成能力向上（テーマの発表）	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
12	スピーチ、レジユメを用いた討論	教科書・配布資料・課題資料	復習と報告の準備	120分
13	スピーチ、レポート作成能力向上（修了レポート予定内容・構成の報告）	教科書・配布資料・課題資料	復習と修正報告の準備	120分
14	スピーチ、レポート作成能力向上（修正の報告）	教科書・配布資料・課題資料	復習と修了レポート準備	120分
15	前期振り返り、ゼミ後期の準備について	教科書・配布資料・課題資料	復習と修了レポート準備	120分
16	後期のスケジュール、前期ゼミの成果全般の確認	教科書	修了レポート作成への取り組み	120分
17	スピーチ、修了レポートの概要報告	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
18	スピーチ、修了レポート概要の修正報告	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
19	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
20	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
21	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
22	スピーチ、修了レポート中間報告と討論	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
23	スピーチ、修了レポート中間報告と討論	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
24	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
25	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
26	修了レポート・プレゼンテーションの準備、個別指導	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート・プレゼンテーションの準備	120分
27	修了レポート・プレゼンテーションの準備、個別指導	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート・プレゼンテーションの準備	120分

28	修了レポート・プレゼンテーション	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート・プレゼンテーションの準備	120分
29	修了レポート・プレゼンテーション	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート・プレゼンテーションの振り返りの考察	120分
30	全体の振り返り	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート・プレゼンテーションの振り返りの考察	120分

⑪ アクティブラーニングについて				
知識定着・確認型 AL、協同学修型 AL を採用する。修了レポートの作成において、教員が修正点を指摘しレベルアップを促す。スピーチ、プレゼンテーション、討論においても教員がコメントを行うことで能力向上を図る。				

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の概要				
実務経験と授業科目との関連性				

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ（Seminar Ⅲ） 263045-14000					担当教員	鯉江 康正 （コイエ ヤスマサ）		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目／課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要									
<p>本ゼミナールは、本学の教育プログラムの一つである「学生による地域活性化プログラム」として実施する。したがって、ゼミでは、①問題解決型教育＝体験・参加型教育の実践として、②「まちの駅」をテーマとしてとりあげ、③ゼミ生と学外アドバイザーとの緊密な連携をとり、④専門知識とスキルを応用してフィールド調査等の作業を行い、⑤地域活性化に貢献することを目的として活動していく。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
<p>地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力を養う／情報収集・分析力を養う。</p>									
③ 授業の進め方・指示事項									
<p>授業時間外においても学生グループでヒアリング活動、ボランティア等への参加を行うことがあり、これらの活動について報告書の作成と提出を求める。すべてグループワークとなるので、他のメンバーに迷惑をかけること。</p>									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
特になし									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
<p>(i) 社会人基礎力を養う（前に踏み出す力：主体性を持って行動できるようになる。考え抜く力：課題を発見し、それに対する解決策を考えられるようになる。チームで働く力：社会のルールや人との約束を守ることは当然のこととして、相手の話を丁寧に聴きつつ、自分の意見を伝えられるようになる。</p> <p>(ii) 地域社会に貢献するとともに、感謝される行動をする。</p> <p>(iii) 活動を正確に伝えられる報告書の作成。</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
特になし。必要に応じてプリントを配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									

過去のゼミ活動報告書								
⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			70%			30%		100%
(i) 社会人基礎力を養う			20%			10%		30%
(ii) 地域社会に貢献するとともに、感謝される行動をする。			20%			10%		30%
(iii) 活動を正確に伝えられる報告書の作成。			30%			10%		40%
フィードバックの方法	提出された報告書等は、添削して返却する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
できる限る学生の自主性に任せるつもりではあるが、課題の提出等厳しく対処するようにする。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	オリエンテーション		ゼミ名簿、授業予定・アルバイト予定表の作成	30分
2	これまでのゼミの取り組み紹介	昨年度の報告書	過年度活動の理解と確認事項の洗い出し	60分
3	活動計画の作成	昨年度の報告書	活動内容の検討を行ってこること	30分
4	実課題への取り組み①（活動計画の決定）	前回までの決定事項資料	活動計画書の作成	90分
5	実課題への取り組み②（ヒアリング準備）	前回までの決定事項資料	ヒアリング先へのアポイントメント	90分
6	実課題への取り組み③（ヒアリング結果の確認）	前回までの決定事項資料	学園祭での企画の検討。「まちの駅」へのヒアリング調査。	90分
7	実課題への取り組み④（ヒアリング結果の確認）	前回までの決定事項資料	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	120分

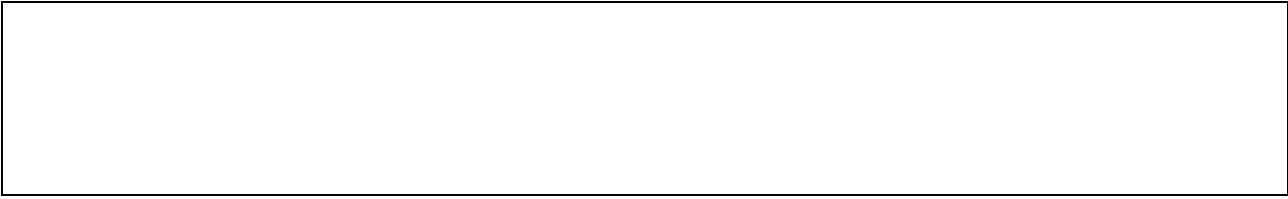
8	実課題への取り組み⑤（オール新潟まちの駅大会企画の概略検討）	前回までの決定事項資料	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	120分
9	実課題への取り組み⑥（オール新潟まちの駅大会企画の詳細検討）	前回までの決定事項資料	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	120分
10	実課題への取り組み⑦（ヒアリング結果の確認）	前回までの決定事項資料	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	120分
11	実課題への取り組み⑧（ヒアリング結果の確認）	前回までの決定事項資料	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	120分
12	中間レビューに向けた準備活動①（ヒアリング結果の整理）	前回までの決定事項資料	各自の担当箇所の資料作成	60分
13	中間レビューに向けた準備活動②（発表資料の作成）	前回までの決定事項資料	ゼミ生による発表資料の調整	90分
14	中間レビューに向けた準備活動③（発表原稿の作成）	前回までの決定事項資料	発表資料・原稿の作成	90分
15	中間レビューに向けた準備活動④（発表の練習）	前回までの決定事項資料	「とうきび観音まつり」への参加（ボランティア）	300分
16	◆中間レビュー	前回までの決定事項資料	中間レビューを受けての今後の活動方針の決定	30分
17	実課題への取り組み⑨（中間レビューからの気づき）	前回までの決定事項資料	オール新潟まちの駅大会の準備	90分
18	実課題への取り組み⑩（オール新潟まちの駅大会の準備）	前回までの決定事項資料	オール新潟まちの駅大会の実施	240分
19	実課題への取り組み⑪（オール新潟まちの駅大会からの気づき）	前回までの決定事項資料	ボランティア、オール新潟まちの駅大会の報告書作成	120分
20	実課題への取り組み⑫（学園祭準備）	前回までの決定事項資料	学園祭の実施	360分
21	実課題への取り組み⑬（学園祭のまとめと気づきの整理）	前回までの決定事項資料	ハロウィンみつけへの参加（ボランティア）	300分
22	実課題への取り組み⑭（ハロウィンみつけのまとめと気づきの整理）	前回までの決定事項資料	今町ハロウィンへの参加（ボランティア）、成果発表会資料の作成	300分
23	成果発表会に向けた準備活動①（今町ハロウィンのまとめと	前回までの決定事項資料	越路マップの配布（ボランティア）、成果発表会資料の作成	240分

	気づきの整理)			
24	成果発表会に向けた準備活動②(越路マップ配布のまとめと気づき)	前回までの決定事項資料	成果発表会資料の作成	90分
25	成果発表会に向けた準備活動③(成果発表会の準備)	前回までの決定事項資料	成果発表会の予行練習	120分
26	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成①(成果発表会のまとめと気づき)	前回までの決定事項資料	報告書目次案の作成と担当分担の検討	90分
27	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成②(報告書の作成)	前回までの決定事項資料	各自の報告書担当分の作成	60分
28	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成③(報告書の作成)	前回までの決定事項資料	各自の報告書担当分の修正	60分
29	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成④(報告書の修正)	前回までの決定事項資料	報告書の全体調整	120分
30	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成⑤(報告書の完成)	前回までの決定事項資料	報告書の最終チェック	30分

⑪ アクティブラーニングについて
課題解決型ALを採用する。課題をゼミ生自らが発見し、協働でフィールドワークを実施し、社会人基礎力を養っていく。最終的には活動報告という形で報告書を作成する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性



令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ (Seminar Ⅲ) 263045-14000					担当教員	米 山 宗 久 (ヨネヤマ ムネヒサ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単 位 数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 知識定着・確認型 AL / 協同学修型 AL / 課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要									
福祉実践者としての視点から、現状の支援施策を検証するとともに、実際に各自が希望する福祉分野にボランティアとして参加し課題の発見やニーズ抽出を学修することを目的とする。さらにそれを解決する方策を考察して提案する能力を習得することを目標とする。ゼミ学生が必要と考えている福祉支援を中心に検証を行う。また、ゼミ生の希望を取り入れて福祉分野全般への取り組みも行う。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
社会福祉を理解するため、市職員・関係施設・ボランティア団体から福祉に必要なサービスや心配ごとなどを学修する。さらに、課題検討・フィールドワーク・ディスカッションを行う。また、子育て支援施設などでのボランティア活動も行う。グループに分かれて、現状を検証しつつ、問題点・解決策を導き出す。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
(i) 地域社会の実情を把握すること (ii) 団体との協働活動ができること (iii) 専門的知識を活用した行動ができること (iv) 自分の意見や他者の考えを理解したコミュニケーションができること (v) 課題解決に向けた情報収集や対策が提案できること									
⑥ テキスト（教科書）									
テキスト指定なし。代わりに、参考書を配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
長岡市（2015）『子ども・子育て支援計画（子育て・育ち“あい”プラン）』 長岡市（2016）『子育てガイドー妊娠期から小学生までー』									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合					70%	30%		100%
(i) 地域社会の実情を把握すること					14%	6%		20%
(ii) 団体との協働活動ができること					14%	6%		20%
(iii) 専門的知識を活用した行動ができること					14%	6%		20%
(iv) 自分の意見や他者の考えを理解したコミュニケーションができること					14%	6%		20%
(v) 課題解決に向けた情報収集や対策が提案できること					14%	6%		20%
フィードバックの方法	情報共有のため、活動報告会を2回、社協主催のボランティア報告会にも参加する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
<p>積極的な行動が行えるように、役割分担を行う。その際はゼミ生の話し合いで決定する。卒論やレポート作成の指導も行う。ゼミ学生の自主性を尊重した活動とする。</p> <p>コミュニティセンター・子育ての駅・高齢者施設でボランティアの参加も行う。</p> <p>自主企画書を作成し、実践も行う。</p>

⑩ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）
1	イントロダクション	配布資料	ボランティアの意義を理解 30分
2	施設見学	配布資料	長岡市の子育て駅を理解 60分
3	グループ別活動計画	配布資料	ボランティアグループの決定 60分
4	長岡市子ども支援計画の考察	配布資料	子育て支援の必要性を理解 60分

5	長岡市高齢者計画の考察	配布資料	高齢者支援の必要性の理解	60分
6	長岡市地域福祉計画の考察	配布資料	地域住民相互の協働支援の理解	60分
7	ゼミ独自の子育て支援の計画協議	配布資料	独自イベントに向けた検討	60分
8	施設見学	配布資料	長岡市の特別養護老人ホームを理解	60分
9	ゼミ活動の考察	配布資料	ゼミ合宿に向けた協議	60分
10	地域課題の考察（1）	配布資料	地域における課題を見つけ出して考察	60分
11	地域課題の考察（2）	配布資料	地域における課題を見つけ出して考察	60分
12	地域課題の考察（3）	配布資料	地域における課題を見つけ出して考察	60分
13	地域課題の考察（4）	配布資料	地域における課題を見つけ出して考察	60分
14	地域課題の考察（5）	配布資料	地域における課題を見つけ出して考察	60分
15	卒業論文中間発表	配布資料	4年生の卒論の考察	60分
16	イントロダクション	配布資料	夏休み中の活動報告	60分
17	施設見学	配布資料	長岡市の子育て駅を理解	60分
18	ゼミ独自の子育て支援の計画協議	配布資料	支援計画の最終協議	60分
19	地域支援計画書の作成（1）	配布資料	地域交流活動の考察	60分
20	地域支援計画書の作成（2）	配布資料	地域交流活動の考察	60分
21	地域支援計画書の作成（3）	配布資料	地域交流活動の考察	60分
22	地域支援計画書の作成（4）	配布資料	地域交流活動の考察	60分
23	卒業論文中間発表	配布資料	4年生の卒論の考察	60分

24	卒業論文に向けた検索（1）	配布資料	背景や現状の資料検索	60分
25	卒業論文に向けた検索（2）	配布資料	背景や現状の資料検索	60分
26	卒業論文に向けた検索（3）	配布資料	背景や現状の資料検索	60分
27	卒業論文に向けた検索（4）	配布資料	背景や現状の資料検索	60分
28	卒業論文に向けた検索（5）	配布資料	背景や現状の資料検索	60分
29	卒業論文中間発表	配布資料	3年生の卒論中間の考察	60分
30	卒業論文発表	配布資料	4年生の卒論の考察	60分

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL では、長岡市役所の「各種福祉計画」のフィードバックを行う。協同学修型 AL では、関係専門職やボランティアとのディスカッションを行う。課題解決型 AL では、関係施設をフィールドワークして支援内容を検証する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設では、生活保護・障害者福祉・高齢者福祉・ひとり親家庭福祉・児童福祉・介護保険制度や児童館に関わる行政業務、ボランティア支援・市民協働活動・福祉教育に関わる地域福祉・ソーシャルワーク業務、利用者の処遇・生活支援・相談業務に関わる利用者支援業務に従事してきた。また、行政計画である「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」「介護保険計画」「障害者計画」の計画策定を行った。さらに「長岡市高齢者保健福祉推進会」「長岡市地域包括支援センター運営部会」「長岡市福祉有償運送運営協議会」「長岡市福祉施設指定管理者選定委員会」「長岡市男女共同参画審議会」「長岡市障害者施策推進協議会」「長岡市民生委員推薦会」などの委員を歴任している。

実務経験と授業科目との関連性

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設における経験から、子ども子育て分野、高齢者分野、障害者分野、地域福祉分野と関わりある支援や政策、つながりの意義や目的、活動内容や影響力、さらに活動における課題を学生に伝えることができる。

たとえば、高齢者支援における住民参加、子育て家庭における孤立化防止、障害者の社会参加などの必要性を伝えることができる。

また、各種行政計画においても、地域交流の現状と課題・問題点が明記されている。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状と課題をまとめたり、課題解決策を導き出す能力を養うことができる。

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ（Seminar Ⅲ） 263045-14000					担当教員	広田 秀樹 （ヒロタ ヒデキ）		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 学生参加型 AL								

① 授業のねらい・概要									
<p>グラスルーツグローバル化という地域活性化プログラムに取り組む。具体的には、第1に地域の外国人の方等をゼミに招待し意見交換を行う。第2に外国人の方等が集まる場を訪問し活発な交流を深める。第3に上記活動等を切っ掛けに、知的学習を深化させ知見・視野を拡大する。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
<p>地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力</p>									
③ 授業の進め方・指示事項									
<p>ゼミの「グラスルーツグローバル化・地域活性化プログラム」の10年以上の伝統から概略を理解した上で、学生自身がチームを組み大胆かつ自主的に新しい企画で、進めること。</p>									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
地域経済論									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
<p>(i) グローバル化と地域の関係を理解できること。 (ii) グローバルな知見・視野を拡大すること。 (iii) グローバル化のファクターを地域発展に取り込む戦略を提言できること。</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
学習資料を配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
<p>スティーブン・カースルズ、マーク・J・ミラー（関根政美・関根薫訳）（2011）『国際移民の時代』名古屋大学出版会</p>									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			10%	25%	40%	25%		100%
(i) グローバル化と地域の 関係の理解			10%		10%	10%		30%
(ii) グローバル関連知見・				10%	20%	10%		40%

視野拡大								
(iii) 地域発展戦略の提言				15%	10%	5%		30%
フィードバックの方法	レポート等に助言をつけ討論資料として紹介する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）	
人口構造の激変を中心要因に地域は生き残り、勝ち残りを迫られている。若者特有の固定観念、通説を打ち破るエネルギー、潜在力を引き出すようなゼミを、引き続きつくって行きたい。	

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	イントロダクション・ブレインストーミング		ブレインストーミングの内容に関するレポート	120分
2	グラスルーツグローバリゼーションとは何か	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
3	宇宙史的スケール、人類史的スケールの視点	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
4	ゼミへの招待活動Ⅰ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
5	ゼミへの招待活動Ⅱ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
6	ゼミへの招待活動Ⅲ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
7	ゼミへの招待活動Ⅳ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
8	招待活動の振り返り	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
9	地域での交流活動Ⅰ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
10	地域での交流活動Ⅱ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
11	地域での交流活動Ⅲ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
12	地域での交流活動Ⅳ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
13	交流活動の振り返り	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分

14	中間レビューの準備	配布参考資料・ 課題資料	関連考察レポート	120分
15	中間レビュー	配布参考資料・ 課題資料	関連考察レポート	180分
16	中間レビューの振り返り	配布参考資料・ 課題資料	関連考察レポート	120分
17	Learning by Stimulation of Globalization (LSG) とは何か	配布学習資料・ 課題資料	自学自習課題の設定に関するレポート	120分
18	LSGによる学習と発表Ⅰ	配布学習資料・ 課題資料	自学自習課題関連レポート報告の準備作業	180分
19	LSGによる学習と発表Ⅱ	配布学習資料・ 課題資料	自学自習課題関連レポート報告の準備作業	180分
20	LSGによる学習と発表Ⅲ	配布学習資料・ 課題資料	自学自習課題関連レポート報告の準備作業	180分
21	LSGによる学習と発表Ⅳ	配布学習資料・ 課題資料	自学自習課題関連レポート報告の準備作業	180分
22	成果発表会準備Ⅰ	配布参考資料・ 課題資料	自学自習関連レポートとグランドプレゼン関係性考察のレポート	120分
23	成果発表会準備Ⅱ	配布参考資料・ 課題資料	グランドプレゼン・コンテンツ準備	180分
24	成果発表会準備Ⅲ	配布参考資料・ 課題資料	グランドプレゼン・コンテンツ準備	180分
25	成果発表会の振り返り	配布参考資料・ 課題資料	グランドプレゼン実行に関する考察レポート	120分
26	報告書作成分担	配布参考資料・ 課題資料	自学自習関連レポートと報告書関係性考察のレポート	120分
27	報告書作成作業Ⅰ	配布参考資料・ 課題資料	報告書分担部分作成	180分
28	報告書作成作業Ⅱ	配布参考資料・ 課題資料	報告書分担部分作成	180分
29	報告書作成作業Ⅲ	配布参考資料・ 課題資料	報告書分担部分作成	180分
30	まとめ	配布参考資料・ 課題資料	自分の総合的レベルアップの考察に関するレポート	120分

⑪ アクティブラーニングについて

学生参加型 AL を採用する。「指示待ち」ではなく、学生がチームを編成した上で、自主的に課題を考察し、具体的な戦略、戦術を計画し、実行するスタイルを徹底する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ（Seminar Ⅲ） 263045-14000					担当教員	石川英樹 （イシカワ ヒデキ）		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目／課題解決型AL／協同学修型AL								

① 授業のねらい・概要									
<p>栃尾高校の生徒の皆さんと協働し、地域イベント活性化、地域の魅力発信などに取り組む。具体的な内容は、随時栃尾高校の先生方・生徒の皆さんとの打ち合わせを経て確定し取り組んでいく。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
<p>地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を育成する授業である。</p>									
③ 授業の進め方・指示事項									
<p>①栃尾地域のツアー開発、②栃尾地域PRにつながる商品開発、③栃尾地域雁木通りの空き家活用策の企画と実施、にそれぞれ取り組む。内容の詳細は、地域の方々との協議などに応じて変更することがあり得る。</p>									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
「ゼミナールⅠ（前）」「ゼミナールⅠ（後）」「ゼミナールⅡ」									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
<p>(i) 地域課題解決の取組を通じた社会人基礎力を向上したことを他者に示せる。 (ii) 地域貢献を実現し、地域の方々から評価いただける。 (iii) 卒業後の進路を切り開く力を培い、進路選択について説明できる。</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
特に指定しない。毎回レジュメを配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
必要に応じて授業中に随時紹介する。									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			20%	10%	20%	30%	20%	100%
(i) 社会人基礎力を向上				5%	10%			15%
(ii) 地域貢献を実現			10%	5%		30%	20%	65%
(iii) 卒業後の進路を切り			10%		10%			20%

開く力								
フィードバックの方法	毎回の授業で、討論の成果等について講評する。ルーブリックを活用し評価を共有する。レポートは評価し返却。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
学生の活動進捗・授業改善提案などを確認しながら講義を進めていく。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	オリエンテーション	筆記用具	活動概要の検討。課題レポートの作成	60分
2	取り組み内容の確認、グルーピング	筆記用具	次週の栃尾高校との共同授業の準備	60分
3	栃尾高校との共同授業①（グループ分けと自己紹介）、雁木通り空き家活用チームの情報収集	筆記用具	次週のディスカッション準備	60分
4	栃尾高校との共同授業②（栃尾地域資源のアイデア出し）、雁木通り現状の情報収集の続き、	筆記用具	栃尾地域の様々な資源について情報収集、ふりかえりレポート作成	60分
5	商品開発、ツアープラン、空き家活用策の企画のアイデア出し	筆記用具	PR すべき栃尾地域の地域資源の検討、空き家活用策関連の情報収集	60分
6	商品開発、ツアープラン、空き家活用策のアイデア出しの続きと整理	筆記用具	PR すべき栃尾地域の地域資源の検討、空き家活用策関連の情報収集	60分
7	栃尾高校との共同授業③（商品開発／ツアーチーム別打ち合わせ）、雁木通りチームの打ち合わせ	筆記用具	ディスカッションふりかえりレポートの作成、次週のための情報収集と整理	60分
8	商品開発・ツアープランの企画の案作り、雁木通り空き家活用策の企画案作成	筆記用具	関連情報の整理、案のフローチャート作業	60分
9	栃尾高校との共同授業④（商品開発／ツアーチーム別案づくり議論）、雁木通りチームの企画案取りまとめ	筆記用具	ディスカッションふりかえりレポートの作成、案のフローチャート作業	60分

10	チーム別の企画案の作成	筆記用具	関連情報の整理、案のフローチャート作業	60分
11	栃尾高校との共同授業⑤（商品開発／ツアーチーム別素案完成と発表）、雁木通りチームの素案完成と発表	筆記用具	素案の振り返りと詳細についての詰め	60分
12	チーム別の企画案の詳細検討	筆記用具	関連情報の整理、案のフローチャート作業	60分
13	チーム別の企画案の詳細検討結果の報告と議論	筆記用具	中間報告の作成	60分
14	イベント参加の計画づくり、雁木通りチームの提案書概要議論	筆記用具	中間報告の作成	60分
15	イベント参加の計画づくり、雁木通りチームの提案書作成作業	筆記用具	中間報告の作成	60分
16	イベントのふりかえり・バスツアー案の完成、雁木通りチーム提案書の実行プラン検討	筆記用具	商品開発・販売、バスツアー案の完成、雁木通り空き家活用案の改善点検討	60分
17	中間報告会の準備	筆記用具	中間報告の資料・原稿作成	120分
18	中間報告会の実施	筆記用具	中間報告のふりかえりレポート作成	60分
19	栃尾高校学園祭等への参加準備、ツアーPR 活動の検討、雁木通りチームの行政等との議論	筆記用具	学園祭等参加の準備作業、ツアーPR 資料の作成、雁木通りチームの提案書確認	60分
20	栃尾高校学園祭等のふりかえりと悠久祭参加準備、ツアーPR と参加者募集策の検討、雁木通り空き家活用プランの実行資料作成	筆記用具	悠久祭の準備作業、ツアーPR 雁木通りチームの実行資料案の作成	60分
21	悠久祭ふりかえり、ツアー実施の準備、雁木通り空き家活用策の実行資料の詰め	筆記用具	悠久祭ふりかえりレポート作成、ツアー実施準備作業、雁木通りチームの実行資料案の改善検討	60分
22	バスツアー実施（商品開発チーム、雁木通りチームとの協働）	筆記用具	バスツアーのふりかえりレポート作成、商品化改善の課題整理、雁木通りチームの実行資料案の改善検	60分

			討	
23	バスツアー（試行版）の振り返り、商品開発・販売の振り返り	筆記用具	成果発表会のためのポイント整理	60分
24	成果発表会の準備～発表内容の打ち合わせ	筆記用具	プレゼンテーション資料の作成作業	60分
25	成果発表会の準備～発表資料類の調整	筆記用具	プレゼンテーション資料の完成と発表原稿の作成	60分
26	成果発表会の準備の仕上げ	筆記用具	発表原稿の完成と発表の練習	60分
27	成果発表会のふりかえり、次年度の課題の抽出	筆記用具	報告書原稿の執筆	60分
28	成果報告書原稿作成～個人別作業	筆記用具	報告書原稿の執筆	60分
29	成果報告書原稿作成～チーム別作業	筆記用具	報告書原稿の執筆	60分
30	次年度計画の作成、成果報告書原稿作成～全体での調整	筆記用具	次年度計画書と報告書の原稿完成	60分

⑪ アクティブラーニングについて
課題解決型 AL 及び協同学修型 AL を採用する。共同でフィールドワークを実施し、社会人基礎力を培っていく。年度後半に、成果報告会での発表と成果報告書の作成を共同で行う。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性

令和 3 (2021) 年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	山川智子ゼミナールⅢ (SeminarⅢ) 263045-14000					担当教員	山川 智子 (ヤマカワ トモコ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 課題解決型 AL / 外部講師招聘科目								

① 授業のねらい・概要									
<p>今年度ゼミテーマは『危機管理』である。「世の中のしくみはどのようになっているのか？ 自分たちの生活や生命を守るために必要な知識や情報は何か？」と考えを具体化する。『危機管理』では、医学・医療・福祉・防犯・防災・日常的なコミュニケーション・金銭や情報のリテラシーなど、事例の紹介やシミュレーションなどを通して、広く役に立つ実際的な問題を取り上げる。心理学・行動経済学・基礎法学・メンタルヘルスマネジメントが年間を通じての知識の土台となる。</p> <p>地方公務員（市役所や県警等）を希望する学生に限らず、「自分の価値を高め、現在以上に力をつけたい！」と真摯に望む学生には、現在の実力を踏まえたゆえで、試験攻略のための個別指導も行う。公務員や各種の採用試験や優良企業への就職試験に合格しうる実をつけるためにも地域の特色を把握し、地域の住民の安全を守るための社会のしくみ、特に防犯・防災を軸に、ひとのいのちを守る行動について考える。3年生は就活と卒論への準備のため、8,000字以上のレポートを書く。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力									
③ 授業の進め方・指示事項									
身近なところから各地域の特性を感じ取り、社会のしくみと地域との関わりを理解する。社会情勢も踏まえ、自分や周囲の人たちの生命と安全を優先した行動を心がける。自分自身の価値を高めるにはどうすればいいか？と自問自答して最適解を求めてゆく。周囲とのコミュニケーションを大事にしたアサーティブな関係構築を目指す。思考体力をつけることと、基礎学力を盤石にすることによって、公務員試験や優良企業への就職試験にも備える。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
地域の特色を把握することや時事問題を軸とした報告レポート・プレゼンテーションも併せて行う。									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
<p>(i) 卒論を書くのに必要な文章表現の型を学び、800字程度に意見を随時まとめられるようになる。</p> <p>(ii) 自分自身の強みをより尖らせるため、戦略的な思考を身に付けて、行動計画へと落とし込む。</p> <p>(iii) 地域の特色や社会情勢を把握して、卒論テーマの選択研究調査活動のやりかたを体得する。</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
<p>必要に応じてレジュメや参考資料を配布する。以下2冊は頻繁に活用するので購入を勧める。</p> <p>樺沢 紫苑『精神科医が教えるストレスフリー超大全』（2020）ダイヤモンド社</p>									

『公務員試験 速攻の時事 令和3年度対応』(2021) 実務教育出版

⑦ 参考図書・指定図書

齋藤 孝『超速読力』(2019) ちくま新書

伊沢 拓司『ひとりひとりにフィットする1からの勉強法』(2020) KADOKAWA

布施川天馬『東大式節約勉強法』(2020) 実務教育出版

東大ケーススタディ研究会『東大生が書いた問題を解く力を鍛えるケース問題ノート』、『現役東大生が書いた地頭を鍛えるフェルミ推定ノート』(2009) 東洋経済新報社

佐藤雅彦・菅俊一・高橋秀明『ヘンテコノミクス』(2017)マガジンハウス

ポーポー・ポロダクション『マンガでわかる行動経済学』(2014) SBクリエイティブ

吉本佳生『NHK 出社が楽しい経済学 DVDブック 1~4』(2009) 日経 BP 社

真壁昭夫『行動経済学見るだけノート』(2018) 宝島社

鎌田浩輝『せまりくる天災とどう向き合うか』(2015) ミネルヴァ書房

ダン・アリエリー他『アリエリー教授の「行動経済学」入門」お金篇』(2018) 早川書房

上記以外にも、必要に応じて随時紹介する。大学図書館内のゼミ担当の推薦図書や防災関連コーナーにある本も参考にして欲しい。

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			30%	40%		30%		100%
(i) 思考体力の醸成			10%	10%		10%		30%
(ii) 行動経済学の知見			10%	10%		10%		30%
(iii) 研究調査の基礎			10%	20%		10%		40%
フィードバックの方法	出席票や解答用紙は、原則返却しない。確認・添削後、修正すべきポイントや評点を知らせる。							

⑨ 担当教員からのメッセージ (昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)

無断欠席は厳禁。ゼミの『鉄の掟』である。出席管理を厳格に行うのは出席不良による失格を未然に防ぎ、評価向上につなげる危機管理である。キャリア開発など就職に関連した科目と、当大学が推奨している資格を目指す科目には、積極的に取り組むことを勧める。自分が目指したいものを極力具体的に考えて欲しい。役割分担や課題内容を明確にして、学生の自主性をなるべく尊重したい。

⑩ 授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間 (分)
1	オリエンテーション～明確化： オンライン授業を味方にする	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。 60分

2	ゼミナール大喜利～スピード感を持って切り返す訓練	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
3	オンライン授業へのカスタマイズ：ITリテラシーと最適化	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
4	行動経済学の視点と実践① サンクコストと各種バイアス	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
5	行動経済学の視点と実践② プロスペクト理論と損失回避	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
6	心の会計と大学錬金術① お金で泣かない大人になれ！	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
7	心の会計と大学錬金術② クラウドファンディングの罫	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
8	地域でのリスクを考える① 街中の意外と危険な場所は？	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
9	地域の特色を知って味わう① 地元の穴場・地域の避難所	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
10	地域の特色を知って味わう② 災害は忘れた頃にやってくる	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
11	ゼミ内活動企画プレゼン① 自分のためのお楽しみ企画	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
12	ゼミ内活動企画プレゼン② みんなで楽しめそうな企画	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
13	研究テーマ企画書の仕上げ セルフテンプレートのススメ	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
14	地域でのリスクを考える② 自分の身近な場所を観察する	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
15	前期のゼミ活動の振り返り 夏休みの課題と将来の問題	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
16	夏期休暇とゼミ活動報告会 何はなくても無事がよい	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
17	地域特性と調査活動① バリアフリーと利便性	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
18	地域特性と調査活動② SNS活用による話題性	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
19	地域でのリスクを考える③ 健康を守るための取り組み	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
20	メンタルヘルスと健康経営① ヤバいストレスの正体を知る	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分

21	メンタルヘルスと健康経営② 働きかた改革と過重労働対策	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
22	行動経済学のトピックス① フレーミング効果と判断基準	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
23	行動経済学のトピックス② ナッジがもたらす行動特性	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
24	行動経済学のトピックス③ ヒューリスティックを活用	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
25	行動経済学のトピックス④ 合理的な判断と失敗から学ぶ	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
26	地域でのリスクを考える④ 将来的な変化に想いを馳せる	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
27	研究テーマの絞り込み① 8,000字のプレ卒論に向けて	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
28	研究テーマの絞り込み② 8,000字のプレ卒論に向けて	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
29	自己PRとプレゼンテーション 比較優位と印象形成	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
30	後期のゼミ活動の振り返り 終わりよければすべてよし	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分

⑪ アクティブラーニングについて	
<p>課題の提出による学生参加型ALを採用する。毎回テーマに即した問いかけをして、寄せられた結果について次回以降に解説と考察を行い、学修内容をフィードバックする。インプットとアウトプットのバランスを考え、課題内容をもとに各自で調べてまとめる作業を従来よりも増やす。オンライン授業でもアサーティブなやりとりを目指す。ケースメソッドの手法を取り入れ、事象の読み解きと問題解決に向けた能力の向上を図る。</p>	

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ（Seminar Ⅲ） 263045-14000					担当教員	権 五景 （グオン オーギョン）		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 学生参加型AL / 協同学修型AL / 課題解決型AL / 外部講師招聘科目								

① 授業のねらい・概要
地域資源の活用こそ、地域経済の発展につながるという考え方の下で地域活性化のために活動している。活性化の対象としているのは「十分杯」である。十分杯は広報活動と動画制作に力を入れる。十分杯のブームを起こすことを目標とし、その火付け役になれるよう情報生産に力を入れていく。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
①地域社会に貢献する姿勢 / ②職業人として通用する能力 / ③専門的知識・技能を活用する能力 ④コミュニケーション能力 / ⑤情報収集・分析力
③ 授業の進め方・指示事項
活動の理由を各自が自覚するためと目標に到達するためのディスカッションと、学外での活動を中心に進める。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
なし
⑤ 標準的な達成レベルの目安
(i) 地域の歴史と現状について他人に説明できるようになる。 (ii) 歴史絡みの観光資源の開発で地域社会を盛り上げることである。 (iii) この2つの目的を達成していくにあたって、文献研究、広報活動、関係団体との打ち合わせ等々を行っていく。この一連の活動によって、①思考力、②説明力、③行動力、④物事を進める力、⑤提案力が大いに鍛えられる。
⑥ テキスト（教科書）
なし
⑦ 参考図書・指定図書
なし

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			15%	30% (報告 書)	40% (ゼミ 活動)	15%		100%
(i) 地域の歴史と現状			5%	10%	15%	5%		35%
(ii) 地域社会を盛り上げる			5%	15%	20%	5%		45%
(iii) 社会人基礎力			5%	5%	5%	5%		20%
フィードバックの方法	毎回前回の活動について議論する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
余裕を持って活動できるように努めたい。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	地域活性化論の考察		議論を図にする。	90分
2	地域資源の事例探し		1つの事例を見つけ、写真と文章をA4サイズで1枚に整理する	90分
3	これまでの活動説明	昨年度の報告書	十分杯の魅力について、各自の考えをまとめる。	90分
4	郷土史料館見学		日本一古い十分杯を見た感想を800字程度に作成する。	90分
5	教訓と文学作品		十分杯の教訓と繋がる文学作品を調べる。	90分
6	世界と長岡藩と十分杯との関わり		当時がわかる資料を探し出す。	90分
7	実験と仕組み		自分の言葉で説明できるように台本を作成する。	90分
8	実験道具作り		大気圧説を証明するための道具を作る。	90分
9	フィレンツェ地域のワイン・マーケティング戦略と十分杯		日本における地域合同ブランドを調べる。	90分

10	知足十分杯の製作		製作を行う。	90分
11	イベントでの広報資料と方法		時間配分と必要道具について800字程度に作成する。	90分
12	動画制作の企画		取材の準備を行う。	90分
13	取材		取材を行う。	90分
14	動画編集①		動画編集を行う。	90分
15	動画編集②		動画編集を行う。	90分
16	動画制作の企画		取材の準備を行う。	90分
17	取材		取材を行う。	90分
18	動画編集①		動画編集を行う。	90分
19	動画編集②		動画編集を行う。	90分
20	中間レビュー		中間レビューを行う。	90分
21	動画制作の企画		取材の準備を行う。	90分
22	取材		取材を行う。	90分
23	動画編集①		動画編集を行う。	90分
24	動画編集②		動画編集を行う。	90分
25	成果発表会準備		原稿を修正し、練習する。	90分
26	成果発表会準備		原稿を修正し、練習する。	90分
27	報告書作成		原稿を修正する。	90分
28	報告書作成		原稿を修正する。	90分

29	報告書作成		原稿を修正する。	90分
30	1年の活動を振替える。		後輩へ伝えたいものを記録として残す。	90分

⑪ アクティブラーニングについて				
全回、学生参加型 AL、課題解決型 AL、協同学修型 AL で行う。課題を履修生自らが発見し、協同で文献研究及び地域への提案事項を検討していく。悠久祭や地域活性化プログラム成果発表会等でプレゼンテーションを行い、活動内容をまとめて報告書を作成する。				

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の概要				
実務経験と授業科目との関連性				

令和3(2021)年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ (Seminar Ⅲ) 263045-14000					担当教員	栗井 英大 (クリイ ヒデヒロ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 課題解決型 AL / 外部講師招聘科目								

① 授業のねらい・概要

長岡市には、例えば食料品・機械器具・金属製品・繊維など、他地域に誇れる産業・企業が存在している。しかし、PR不足を主因に、認知度が低い産業・企業も少なくない。その結果、市内企業に就職する学生も限定的である。そこで、長岡市の優れた産業・企業の認知度を高める活動を行う。

まず、統計資料・HP等を参考に、長岡市の産業とその特徴、代表的な企業とその企業の強み、ビジネスモデル等の知識を得る。次に、積極的に企業見学・ヒアリングを行い、現場を見る・聞く・考えることで、産業・企業への理解を深める。その後、それまでの活動内容を基に、産業・企業の誇れる点、すなわち「強み」を探し出し、そのPR手法を検討・実行する。

加えて、企業経営・ビジネスモデルに関する知識の深化と実践を目的として、ビジネスプランを自ら構築する演習・発表等を行い、その成果をビジネスコンテスト・起業関連コンテストへ応募することを推奨する。

長岡市の産業・企業の知識習得、「強み」発見、「見える化」の過程を通して、社会人基礎力を高めていく。また、「5つの力」(聴く力・話す力・書く力・考える力・時間力)を鍛え、就職活動に資する力、社会人に必要な基本スキルを高める。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

①地域社会に貢献する姿勢 / ②職業人として通用する能力 / ③専門的知識・技能を活用する能力 / ④コミュニケーション能力 / ⑤情報収集・分析力を養う。

③ 授業の進め方・指示事項

正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない。
学生の意見を取り入れつつ講義を進める。積極的な意見表明を期待する。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

「地域活性化論」「起業家塾」

⑤ 標準的な達成レベルの目安

- (i) 長岡の鉄工業を理解・説明することができる。
- (ii) オープンファクトリーの手法を理解・説明・実践することができる。
- (iii) アンケート調査手法を理解・説明・実践することができる。

⑥ テキスト（教科書）
テキスト指定なし。必要に応じて授業時に資料を配布する。
⑦ 参考図書・指定図書
須田寛（2015）『産業観光ーものづくりの観光』交通新聞社 その他、テーマに関連した参考文献や関連情報を必要に応じ紹介する。

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			30%	30%	30%	10%		100%
(i) 長岡の鉄工業の理解・ 説明			10%	10%	10%	3%		33%
(ii) オープンファクトリ ーの手法の理解・説明・実 践			10%	10%	10%	4%		34%
(iii) アンケート調査手法 の理解・説明・実践			10%	10%	10%	3%		33%
フィードバックの方法	初回講義内で、成績評価の方法・基準、講義の進め方等について、具体的に説明するので、出席すること。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
学生の理解度・適性を確認しながら、運営していく。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	ゼミⅢ・Ⅳの概要説明 自己紹介	筆記用具	昨年の取組確認 90分	
2	今年の活動内容決定 工場見学準備	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討 90分	
3	工場見学①（予定） 長岡市内製造業	筆記用具 ノート	ヒアリングシート作成 90分	

4	工場見学振り返り きもの gottaku 視察準備	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討	90分
5	きもの gottaku 視察準備 鉄工青研セミナー準備	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討	90分
6	きもの gottaku 振り返り	筆記用具 ノート	ヒアリングシート作成	90分
7	鉄工青研セミナー準備	筆記用具 ノート	発表準備	90分
8	工場見学準備 製造業へのアンケート調査	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討	90分
9	工場見学②（予定） 長岡市内製造業	筆記用具 ノート	ヒアリングシート作成	90分
10	工場見学振り返り 悠久祭出店検討	筆記用具 ノート	悠久祭出店準備	90分
11	工場見学準備	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討	90分
12	工場見学③（予定） 長岡市内製造業	筆記用具 ノート	ヒアリングシート作成	90分
13	工場見学準備 場見学振り返り	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討	90分
14	工場見学④（予定） 長岡市内製造業	筆記用具 ノート	ヒアリングシート作成	90分
15	工場見学振り返り ビジネスプランの作成	筆記用具ノート ビジネスプラン	ビジネスプランの作成	90分
16	後期の活動内容確認 「工場の祭典」視察準備	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討	90分
17	「工場の祭典」視察準備	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討	90分
18	悠久祭準備 製造業へのアンケート調査	筆記用具 ノート	悠久祭準備 アンケート票作成	90分
19	悠久祭準備 製造業へのアンケート調査	筆記用具 ノート	悠久祭準備 アンケート票作成	90分
20	悠久祭準備 製造業へのアンケート調査	筆記用具 ノート	悠久祭準備 アンケート票作成	90分
21	発表会準備（パワポ作成）	筆記用具 ノート	発表用パワーポイント作成	90分
22	発表会準備（パワポ作成）	筆記用具 ノート	発表用パワーポイント作成	90分

23	発表会準備（発表練習）	筆記用具 ノート	発表用パワーポイント作成	90分
24	中間レビュー	筆記用具 ノート	発表練習	90分
25	発表会準備（発表練習）	筆記用具 ノート	発表練習	90分
26	報告書作成	筆記用具 ノート	報告書作成	90分
27	報告書作成	筆記用具 ノート	報告書作成	90分
28	報告書作成	筆記用具 ノート	報告書作成	90分
29	報告書作成	筆記用具 ノート	報告書作成	90分
30	報告書作成	筆記用具 ノート	報告書作成	90分

⑪ アクティブラーニングについて

協同学習型 AL を採用する。

資料調査・企業ヒアリングを基にした発表・ディスカッション等を通じて、学生自ら産業・企業の強み・課題を探求し、製造業の「見える化」案を構築する。

また、ビジネスプランの作成、ブラッシュアップ、ビジネスコンテストへの参加により、ビジネスモデルの知識の実践を目指す。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

平成 15（2003）年 3 月～平成 24（2012）年 6 月まで、(財)新潟経済社会リサーチセンターに在籍。研究員として、新潟県経済の調査分析および業界動向等の調査レポート作成業務に従事した。

実務経験と授業科目との関連性

県内外の地域活性化事例に触れ、各種レポート作成に携わった経験を生かし、長岡地域を活性化すべく、活動を行っていく。

令和3(2021)年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ (SeminarⅢ) 263045-14000				担当教員	生島 義英 (イクシマ ヨシヒデ)			
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数 2	配当年次	3年次	開講期	通年	
科目特性	地域志向科目／協同学習型 AL／課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要

「長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やそう。」をテーマに掲げ、長岡市の地域活性化策を研究する。

本ゼミナールでは「歴史ある醸造のまち」長岡市摂田屋地区に焦点を絞り、どうすれば観光客を増加させることができるのかを経営学をはじめとする様々な側面から研究する。

摂田屋地区の歴史・今までの摂田屋地区における地域活性化策の取り組みなどを調べるとともに、現地調査・アンケート調査を実施し、様々な視点から摂田屋地区の観光地としての強みと弱み、機会と脅威を SWOT 分析などで戦略を立てるとともに、アンケートなどで収集したデータを統計処理することにより、魅力を高めるために必要な改善すべき課題を明らかにする。

分析した結果を踏まえ、摂田屋地区の活性化に対する具体的な戦略を構築し、地域活性化策を立案し、具体的な実行計画を策定する。

これらの研究を進めるにあたり、必要なマーケティングや課題解決などをはじめとする経営学の手法、統計学の手法、まちづくりの手法、ITの積極的活用、エリアマネジメント手法などについて自発的かつ能動的な学習をすることとなる。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

地域の課題に取り組みことにより、地域社会に貢献する姿勢を育成する。

地域研究を推し進めるため、専門的知識・技能を活用する能力を高め、研究を推進する。

地域の住民や連携する組織と相互コミュニケーションを図る機会が多く設けられるため、コミュニケーション能力の向上が図られる。

問題解決のため、仮説を立てそのための情報収集を行い、データの分析・解析を行うため情報収集能力と分析力が高められる。

③ 授業の進め方・指示事項

共通の目的・目標を明確に示したうえでゼミナール内をチーム編成し、それぞれのチームに対しミッションを与え、そのミッションを達成することを目標に活動する。

チーム間の情報共有化を図るため、定例会を設定しゼミナールメンバー全員が、各チームの取り組み内容や進捗状況を把握できる体制を確立する。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

経営学関連／マーケティング関連科目、統計学関連科目、コンピュータ関連科目など

⑤ 標準的な達成レベルの目安

(i) 対象となる地域の歴史的経緯や発展の過程を把握することができる
(ii) 対象となる地域の現状と課題を把握することができる。
(iii) 4年次修了時点で地域の課題抽出とその課題解決案を策定することができる。
⑥ テキスト（教科書）
必要に応じてその都度指示する。
⑦ 参考図書・指定図書
必要に応じてその都度指示する。

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			30%		50%	20%		100%
(i)対象となる地域の歴史的経緯や発展の過程を把握			15%		25%	10%		50%
(ii)対象となる地域の現状と課題を把握 (iii)対象となる地域の現状と解決策の策定			15%		25%	10%		50%
フィードバックの方法	ゼミナール定例会において、取組内容を発表することによりチームごとに振り返りを行い、方向性・取組み内容の指導を行う。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
より実践的で具体的な解決策が提案できるように指導していきたい。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	イントロダクション	配布資料・参考資料	配布資料の復習	60分
2	摂田屋地区の研究① 各チーム取組内容の提示	配布資料・参考資料・成果物	課題の取組みとワークの復習 チーム課題への取組	180分
3	摂田屋地区の研究② チーム課題の研究	配布資料・参考資料・成果物	チーム課題への取組	180分
4	摂田屋地区の研究③ チーム課題の研究	配布資料・参考資料・成果物	チーム課題への取組	180分

5	摂田屋地区の研究④ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 進捗報告書作成	180分
6	摂田屋地区の研究⑤ チーム課題の進捗報告	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
7	摂田屋地区の研究⑥ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
8	摂田屋地区の研究⑦ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
9	摂田屋地区の研究⑧ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 進捗報告書作成	180分
10	摂田屋地区の研究⑨ チーム課題の進捗報告	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
11	摂田屋地区の研究⑩ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
12	摂田屋地区の研究⑪ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
13	摂田屋地区の研究⑫ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 進捗報告書作成	180分
14	摂田屋地区の研究⑬ チーム課題の進捗報告	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
15	摂田屋地区の研究⑭ チーム課題プレゼンの準備	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
16	摂田屋地区の研究⑮ チーム課題プレゼンの準備	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
17	中間レビュー	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
18	摂田屋地区の研究⑯ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 進捗報告書作成	180分
19	摂田屋地区の研究⑰ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
20	摂田屋地区の研究⑱ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
21	摂田屋地区の研究⑲ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
22	摂田屋地区の研究⑳ 発表会プレゼンの準備	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
23	摂田屋地区の研究㉑ 発表会プレゼンの準備	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分

24	摂田屋地区の研究⑳ チーム課題プレゼンの準備	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
25	摂田屋地区の研究㉑ チーム課題のとりまとめ	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 報告書作成	180分
26	摂田屋地区の研究㉒ チーム課題のとりまとめ	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 報告書作成	180分
27	摂田屋地区の研究㉓ チーム課題のとりまとめ	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 報告書作成	180分
28	摂田屋地区の研究㉔ チーム課題のとりまとめ	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 報告書作成	180分
29	摂田屋地区の研究㉕ チーム課題のとりまとめ	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 報告書作成	180分
30	摂田屋地区の研究㉖ チーム課題の成果報告	配布資料・参考 資料・成果物	継続案件の後輩へ引き継ぎ書面作 成	180分

㉑ アクティブラーニングについて

地域志向科目／協同学習型 AL／課題解決型 AL を実施する。

具体的には、チーム単位で対象地域に出向き、調査研究を行うことにより、協同型学習を推し進めるとともに、地域の課題を見出し、その解決策を具体的に思考することにより課題解決能力を高める。

※以下は該当者のみ記載する。

㉒ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

昭和 63 年（1988 年）4 月から平成 31 年（2019 年）3 月まで 31 年間民間企業に在籍し、在籍期間中は、情報システム部門においてシステム設計と運用など、物流管理部門において新規仕組みの構築と運用改善・物流教育など、人事労務管理部門において制度設計や法令変更対応、組合との交渉など、総務部門において株主総会・取締役会の事務局運営やコンプライアンスなどの業務に従事した。実務担当者、管理職、グループ企業の取締役の経験など様々なマネジメント業務に携わった。

実務経験と授業科目との関連性

担当者としての実務経験や部門長として管理職経験、役員経験を活かし、実務経験がなく、実務を想像しにくい学生に対して、より実務的に具体的にビジネスの企画・具現化・改善などの一連のプロセスを教授することができる。

現場で発生している問題など具体的な事例をもとに、課題解決策の策定などについて、興味深く説明することができる。

令和3(2021)年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ(Seminar Ⅲ) 263045-14000					担当教員	吉川 宏之 (ヨシカワ ヒロユキ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目／協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要
携帯電話、携帯ゲーム機など、コンピュータは身近な所で利用されています。これらの機能やサービスを調べることから始めていきます。基本を理解した上で、「身近な地域にどんなサービスがあれば便利か」を考えていきます。最近、スマートフォンの普及で便利な点も増えてきましたが、ウイルスや個人情報の漏洩など、問題も多くなっています。これらの点もふまえて検討していきたいと思います。コンピュータ室で実際にコンピュータを使いながら、新しい機器、サービスの利用方法などのグループディスカッションを含めて進めていきます。また、アルゴリズム(プログラム)の基本となる「判断分岐」、「繰り返し」についてパズルなどを利用して理解を深め、簡単なプログラムの作成を行っていく予定です。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力
③ 授業の進め方・指示事項
課題などの作成のために、パソコンが必要になります。学校のコンピュータを使用できますが、自宅にあると作業がはかどります。プレゼンテーションを何度か行います。PowerPoint 以外のソフトウェアでもかまいません。プレゼンテーションは内容が重要です。発表方法は各自くふうしてください。プログラムやプレゼンテーションなどの課題を期限までに作成しておくこと。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
⑤ 標準的な達成レベルの目安
インターネットを活用し、自分で考えて Word、Excel、PowerPoint 等を組み合わせ、適切な資料の作成とプレゼンテーションを行える実力を養うことを目標とします。 (i) 5分程度のプレゼンテーション作成 (ii) 5分程度のプレゼンテーション (iii) 50行程度のプログラム作成
⑥ テキスト(教科書)
⑦ 参考図書・指定図書

--

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合				20%	50%	30%		100%
(i) 5分程度のプレゼンテーション資料の作成					20%	10%		30%
(ii) 5分程度のプレゼンテーション				5%	20%	10%		35%
(iii) 50行程度のプログラム作成				15%	10%	10%		35%
フィードバックの方法	プログラムやプレゼンテーションなどの課題のフィードバックを行う。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
<p>プレゼンテーションの回数を増やし、自分の考えを相手に伝える方法（コミュニケーション能力のひとつ）の向上をはかる。</p> <p>遠隔による授業参加を考慮し、グループワークは後期から取り入れていく。</p>

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	概要の説明 遠隔で授業を受ける場合の注意事項		授業内容を復習し、次回の授業受講のために準備を行う。	30分
2	自己紹介を兼ねた地域の紹介 プレゼンテーションの説明		プレゼンテーション作成	30分
3	地域の紹介プレゼンテーションの作成 1		プレゼンテーション作成	30分
4	地域の紹介プレゼンテーションの作成 2		プレゼンテーションの発表準備	60分
5	地域の紹介プレゼンテーションの発表		発表の振り返り	30分
6	プログラミングパズル 1(アルゴリズム)		パズルの振り返り	60分

7	プログラミングパズル 2(アルゴリズム)		パズルの振り返り	60分
8	プログラミングパズル 3(blockly)		パズルの振り返り	60分
9	プログラミングの基礎 1(Scratch)		プログラミングの振り返り	30分
10	プログラミングの基礎 2(Scratch)		プログラミングの振り返り	30分
11	プログラミングの基礎 3(Scratch)		課題作成の準備	30分
12	課題(ゲームなど)の作成 1(Scratch)		課題作成	30分
13	課題(ゲームなど)の作成 2(Scratch)		課題作成	30分
14	課題(ゲームなど)の作成 3(Scratch)		課題発表の準備	60分
15	課題の発表と前半のまとめ		前期の振り返り	30分
16	プログラミングパズル		パズルの振り返り	30分
17	プレゼンテーション作成 1		プレゼンテーションの資料作成	30分
18	プレゼンテーション作成 2		プレゼンテーションの発表準備	60分
19	プレゼンテーション発表		プレゼンテーションの振り返り	30分
20	テーマ課題 1 作成 1(Scratch)		課題作成	30分
21	テーマ課題 1 作成 2(Scratch)		課題作成	30分
22	テーマ課題 1 作成 3(Scratch)		課題発表の準備	60分
23	テーマ課題 1 発表(Scratch)		発表の振り返り	30分
24	プレゼンテーション作成		プレゼンテーションの発表準備	60分
25	プレゼンテーション発表		プレゼンテーションの振り返り	30分

26	テーマ課題 2 作成 1		課題作成	30 分
27	テーマ課題 2 作成 2		課題作成	30 分
28	テーマ課題 2 作成 3		課題発表の準備	60 分
29	テーマ課題 2 発表		課題発表の振り返り	30 分
30	まとめ		全体の振り返り	30 分

⑪ アクティブラーニングについて	
協同学修型 AL を採用する。演習問題を課し、調査結果を持ち寄ってグループディスカッションを行う(2 回程度)。作成したプログラムを、互いに比較しながら動作の違い、使いやすさ、見栄えの違いなどの検証をおこなう(2 回程度)。	

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性

令和3(2021)年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ (Seminar3) 263045-14000					担当教員	武本 隆行 (タケモト タカユキ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目/協同学習型 AL/課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要									
<ul style="list-style-type: none"> 本ゼミをトリガー(引き金、きっかけ)とした《主体的思考》の習慣化と具体的行動の実践する 必要な情報をWEB検索に頼らず足も使いながら幅広く探索することの重要性を肌で実感する 相手の立場(聞き手・聴き手)に立ち、望まれることは何か、有益な情報とは何かを模索する 									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力を養う / 情報収集・分析力を養う									
③ 授業の進め方・指示事項									
授業時間外においても学生グループで取材活動や企画会議などへの参加を行うことがある。これらの活動について報告書の作成と提出を求める。すべてグループワークとなるため自助・共助を心がけること。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
特になし									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
(i) 社会人基礎力を養う(課題発見力・傾聴力・実行力・協調性)									
(ii) 地域社会に対して貢献をすることに加えて楽しんでもらえる									
(iii) 活動を正確に伝えられる報告書の作成									
⑥ テキスト(教科書)									
特になし。必要に応じてプリントを配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
過去のゼミ活動報告書									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			70%			30%		100%
(i)			20%			10%		30%
(ii)			20%			10%		30%

(iii)			30%			10%		40%
フィードバックの方法	提出された報告書等は添削して返却する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
学生同士による自助・公助の意識を礎とした「主体的取り組み」が大前提。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	オリエンテーション	筆記具	ゼミ生名簿作成・授業予定・活動概要の検討	30分
2	取り組み内容の確認、グループング	筆記具	各グループでの企画の方向性検討	60分
3	ラジオ局からのオリエンテーション	筆記具 各種準備資料	翌週にむけたディスカッション準備	120分
4	活動計画の作成	筆記具 各種準備資料	番組放送日からの逆算スケジュール作成	120分
5	企画会議～コンセプト	筆記具 各種準備資料	翌週にむけたディスカッション準備	120分
6	企画会議～具体案	筆記具 各種準備資料	翌週にむけたディスカッション準備	90分
7	街中取材	取材ツール一式	活動報告書作成	120分
8	企画会議～全体構成	前回までの決定事項資料	翌週にむけたディスカッション準備	120分
9	企画会議～全体構成	前回までの決定事項資料	翌週にむけたディスカッション準備	120分
10	街中取材	取材ツール一式	活動報告書作成	120分
11	ラジオ局へのプレゼンテーション資料作成	前回までの決定事項資料	プレゼン資料作成および練習	120分
12	ラジオ局へのプレゼンテーション資料作成	前回までの決定事項資料	プレゼン資料作成	120分
13	ラジオ局へのプレゼンテーション-1	各種資料	活動報告書作成	90分
14	ラジオ局へのプレゼンテーション-2	各種資料	活動報告書作成	90分

15	全体構成の修正（再提案準備）	前回までの決定事項資料	翌週にむけたディスカッション準備	120分
16	全体構成の修正（再提案準備）	前回までの決定事項資料	翌週にむけたディスカッション準備	120分
17	ラジオ局への最終プレゼンテーションテーション	各種資料	活動報告書作成	90分
18	番組制作進行	取材・編集ツール一式	活動報告書作成	90分
19	番組制作進行	取材・編集ツール一式	活動報告書作成	120分
20	番組制作進行	取材・編集ツール一式	活動報告書作成	240分
21	番組制作進行	取材・編集ツール一式	活動報告書作成	300分
22	番組制作進行	取材・編集ツール一式	活動報告書作成	300分
23	番組素材のラジオ局納品	取材・編集ツール一式	活動報告書作成	300分
24	成果発表会の準備～発表内容の打ち合わせ	各種資料 筆記具	プレゼンテーション資料の作成	60分
25	成果発表会の準備～発表資料類の調整	各種資料 筆記具	プレゼンテーション資料の完成と発表原稿の作成	120分
26	成果発表会準備の仕上げ	各種資料 筆記具	発表原稿の完成および発表にむけた練習	120分
27	成果発表会の反省および次年度の課題抽出	各種資料 筆記具	報告書原稿の作成	60分
28	成果報告書原稿作成(個別)	各種資料 筆記具	報告書原稿の作成	60分
29	成果報告書原稿作成(グループ別)	各種資料 筆記具	報告書原稿の作成	60分
30	次年度計画の作成、成果報告書原稿作成（全体調整）	各種資料 筆記具	次年度計画書と報告書の原稿完成	60分

⑪ アクティブラーニングについて

課題解決型 AL を採用する。課題をゼミ生自らが発見し、協働でフィールドワークを実施し、社会人基礎力を養っていく。最終的には活動報告という形で報告書を作成する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
20 余年の広告代理店勤務にて、マーケティング戦略の設計から店頭プロモーションの企画・運営、販売スタッフ研修など、分野横断的に実践を重ねる。そうした経験主義に、経営管理学修士(MBA)の取得を通じての系統主義を加えた、実務と理論を架橋し体系化させた業務従事を特徴とする。
実務経験と授業科目との関連性
地域課題の発見力や他者理解能力が求められるゼミナール活動では、徹底した主体的取り組みが必須となり、まさにマーケティング的思考プロセスが重要となる。実務を視野に入れたうえでのより実践的な授業構成とする。

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ（Seminar Ⅲ） 263045-14000					担当教員	坂井 一貴 （サカイ カズタカ）		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	協同学習型 AL / 課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要

右肩上がりではない社会，および情報化が進展し社会変化が大きい現在において，課題に対して客観的なデータを基に，解決できるのではないかという具体的な案を考え，実現するための流れ，手法について修得することを目的とする。

具体的には，行政や民間シンクタンク等が多くの統計データ，アンケート調査を利用し，データ処理を行いそこから有用な情報を見つける技術力・思考力を身につける。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力 を養う。

③ 授業の進め方・指示事項

地域や社会における課題を客観的データを利用し解決策を考えていく。そのためには，日常的に社会に関心を持ち情報収集をすることが必要であることから，新聞やニュース・政府 Web サイトなどの有用な情報ソースを日々チェックをする。併せて，成果を出そうとすればゼミ以外の時間帯も利用して主体的にデータ分析やその結果に対するディスカッション等を進めることが必要である。

また，オフラインだけでなく slack を用いたオンライン上での活動も予定している。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

統計学，Excel や PowerBI などのデータ処理ソフトウェア・ツールなどを主体的に学修する。

⑤ 標準的な達成レベルの目安

- (i) 各種統計データなどを適切な供給先を選択して，データを収集することができる。
- (ii) 収集したデータを Microsoft Excel®などを用いて，有用な情報として加工することができる。
- (iii) データを加工して得られた情報から，社会課題に対しての具体的な解決案を自ら考えることができる。

⑥ テキスト（教科書）

特になし 「政府統計の総合窓口 e-Stat」や「RESAS 地域経済分析システム」などの Web サイトを主に活用する。

⑦ 参考図書・指定図書

Microsoft Excel®の関数辞典や PowerBI などのツール，またはプログラム言語に関する書籍全般。

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			60%		40%			100%
(i) データ収集ができる			20%		10%			30%
(ii) データ加工ができる			30%		10%			40%
(iii) 解決案を考えられる			10%		20%			30%
フィードバックの方法								

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
<p>1年間の長期の取り組みの場合、当初スケジュールよりも進捗が遅れることが多いため、月1回のレビュー・リスケジュール等を促すコメントを多くし、事前に様式等を定めておく。</p> <p>ただし、進捗管理・リスク等も主体的にやるべき事象のため、提出を求めるようなことはしない。</p>

⑩ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）
1	ゼミの進め方とオンラインツールの確認	パソコンまたは通信デバイス (BYOD)	オンラインツールの準備 Excel等の必要な知識・技能修得のための学修 60分
2	政府統計サイトの確認とデータ収集・CSVデータ処理	パソコンまたは通信デバイス	Excel等の必要な知識・技能修得のための学修 地域社会の課題を複数考える 60分
3	政府統計サイトの確認とデータ収集・CSVデータ処理	パソコンまたは通信デバイス	Excel等の必要な知識・技能修得のための学修 地域社会の課題を複数考える 60分
4	地域社会の課題についてのディスカッション	パソコンまたは通信デバイス	課題解決に関連するデータを各種サイトから調べダウンロードする 60分
5	地域社会の課題についてのディスカッション	パソコンまたは通信デバイス	課題解決に関連するデータを各種サイトから調べダウンロードする 60分
6	地域社会の課題についての解決案仮説設定	パソコンまたは通信デバイス	課題解決に関連するデータを各種サイトから調べダウンロードする 60分
7	課題解決案を導き出すための年間スケジュール作成	パソコンまたは通信デバイス	課題解決に関連するデータを各種サイトから調べダウンロードする 60分
8	データ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工する 60分

9	データ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
10	地域社会の課題についての解決案仮説検証	パソコンまたは通信デバイス	課題解決に関連するデータを各種サイトから調べダウンロードする	60分
11	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
12	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
13	地域社会の課題についての解決案仮説再検証	パソコンまたは通信デバイス	課題解決に関連するデータを各種サイトから調べダウンロードする	60分
14	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
15	地域社会の課題についての解決案仮説再検証	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
16	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
17	地域社会の課題についての解決案仮説再検証	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
18	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
19	地域社会の課題についての解決案仮説再検証	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
20	成果発表会に向けた資料作成	パソコンまたは通信デバイス	発表用スライドの作成	60分
21	成果発表会に向けた資料作成	パソコンまたは通信デバイス	発表用スライドの作成	60分
22	成果発表会に向けた発表準備	パソコンまたは通信デバイス	発表時に原稿を持たず自らの言葉で具体的に説明できるための準備をする	60分
23	成果発表会に向けた発表準備	パソコンまたは通信デバイス	発表時に原稿を持たず自らの言葉で具体的に説明できるための準備をする	60分
24	成果発表会に向けた発表準備	パソコンまたは通信デバイス	発表時に原稿を持たず自らの言葉で具体的に説明できるための準備をする	60分
25	活動報告書の作成	パソコンまたは通信デバイス	読み手に確実に伝わる独り善がりではない報告書にするための推敲を行う	60分

26	活動報告書の作成	パソコンまたは通信デバイス	読み手に確実に伝わる 独り善がりではない報告書にするための推敲を行う	60分
27	活動報告書のレビュー	パソコンまたは通信デバイス	レビューによる指摘点を報告書に反映させる	60分
28	活動報告書の作成	パソコンまたは通信デバイス	レビューによる指摘点を報告書に反映させる	60分
29	活動報告書のゼミ内発表会	パソコンまたは通信デバイス	今年度の活動を振り返り、 全体として、または個人としての改善点を洗い出す	60分
30	1年間の振り返りと 来期の活動計画策定	パソコンまたは通信デバイス	返り来期に向けた必要な準備に 取り掛かる	60分

⑪ アクティブラーニングについて				
<p>ゼミのため、すべてのアクティブラーニング項目が該当するが、本ゼミでは特に、専門的知識・技能を活用する能力、情報収集・分析力 について強化およびそれを評価する。</p> <p>統計データを活用し現在も未解決な社会課題に対して、ゼミ全体で協同して情報収集・分析し若者としての視点を生かして解決案を策定することで論理的思考力・批判的思考力を養う。</p> <p>併せて、データを加工するためには専門的な知識・技能を用いなければならず、それらが仮に不足しているようであれば主体的に学修することで補い、それらの能力を適切な水準まで持っていく。</p> <p>ゼミのため、担当教員はあくまでもファシリテーターとして関与し、調査・研究は学生主体で行う。</p>				

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の概要				
実務経験と授業科目との関連性				

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ（Seminar Ⅲ） 263045-14000					担当教員	中村 大輔 （ナカムラ ダイスケ）		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要

中村ゼミでは「会計を通じて企業を知る」をテーマとしている。特に企業が公表する有価証券報告書等の資料を用いることで、定量的・定性的にその企業の戦略とその成果を明らかにし、さらにはその将来像を見通すことができる。

そこで、本ゼミではゼミ生各々が自分の興味がある企業を選択し、その企業を1年間かけて詳細に分析を行う。そして年度末にはそれを報告書としてまとめることとする。こうしたなかで会計や形成分析という「専門的知識を用いて情報収集・分析をすることができる職業人」を育成する。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力を養う。

③ 授業の進め方・指示事項

各回の報告担当者か否かに関係なく、各自資料や文献等から疑問点や論点を考えてくること。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

「会計学1・2」、「財務会計1・2」「管理会計」、「経営分析」を履修することが望ましい。

⑤ 標準的な達成レベルの目安

- (i) 有価証券報告書の基本的な構造・内容が理解し、説明できる。
- (ii) 対象とする企業を分析した報告書を作成できる。

⑥ テキスト（教科書）

テキストは用いない。対象となる有価証券報告書を用いる。

⑦ 参考図書・指定図書

石野雄一(2005)『道具としてのファイナンス』日本実業出版社
青木茂男編著『要説 経営分析（五訂版）』森山書店

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合				60%	40%			100%
(i) 有価証券報告書の基本的な構造・内容が理解し、説明できる。				30%	20%			50%
(ii) 対象とする企業を分析した報告書を作成できる。				30%	20%			50%
(iii)								
フィードバックの方法	作成したレジюмеや報告書等はコメントを付ける							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
自信をもって「企業分析ができる」と言える学生を育てたい。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	全体説明	特になし	新聞の経済欄等を読むクセを付ける。	60分
2	資料の入手方法	特になし	新聞の経済欄等を読むクセを付ける。	60分
3	資料の入手	特になし	新聞の経済欄等を読むクセを付ける。	60分
4	有価証券報告書を読む① （全体の構造）	有価証券報告書	有価証券報告書の全体を見ておく	60分
5	有価証券報告書を読む② （企業の概況）	有価証券報告書	第一部【企業情報】第1【企業の概況】を読んでおく	60分
6	有価証券報告書を読む③ （事業の状況）	有価証券報告書	第一部【企業情報】第2【事業の状況】を読んでおく	60分
7	有価証券報告書を読む④ （設備の状況）	有価証券報告書	第一部【企業情報】第3【設備の状況】を読んでおく	60分
8	有価証券報告書を読む⑤ （提出会社の状況）	有価証券報告書	第一部【企業情報】第4【提出会社の状況】を読んでおく	60分
9	有価証券報告書を読む⑥ （経理の状況－概観）	有価証券報告書	第一部【企業情報】第5【経理の状況】を見ておく	60分

10	有価証券報告書を読む⑦ (経理の状況－損益計算書)	有価証券報告書	第一部【企業情報】第5【経理の状況】の(連結)損益計算書を見ておく	60分
11	有価証券報告書を読む⑧ (経理の状況－貸借対照表)	有価証券報告書	第一部【企業情報】第5【経理の状況】の(連結)貸借対照表を見ておく	60分
12	有価証券報告書を読む⑨ (経理の状況－株主資本等変動計算書)	有価証券報告書	第一部【企業情報】第5【経理の状況】の(連結)株主資本等変動計算書を見ておく	60分
13	有価証券報告書を読む⑩ (経理の状況－キャッシュ・フロー計算書)	有価証券報告書	第一部【企業情報】第5【経理の状況】の(連結)キャッシュ・フロー計算書を見ておく	60分
14	分析対象企業の発表	有価証券報告書	分析対象企業を理由と共に報告する準備をする。	60分
15	前期まとめ	特になし	夏休みに行う分析の資料集めをする	60分
16	後期全体説明	特になし	収集した資料と分析結果をまとめておく	60分
17	収益性分析	有価証券報告書	対象企業の収益性を分析する	60分
18	安全性分析	有価証券報告書	対象企業の安全性を分析する	60分
19	生産性分析	有価証券報告書	対象企業の生産性を分析する	60分
20	成長性分析	有価証券報告書	対象企業の成長性を分析する	60分
21	時系列分析	有価証券報告書	対象企業の収益性・安全性・生産性・成長性を時系列で見ておく	60分
22	業界平均との比較	有価証券報告書	対象企業と業界平均との差を見ておく	60分
23	報告書の作成・発表①	有価証券報告書 原稿	データを表やグラフにまとめる	60分
24	報告書の作成・発表②	有価証券報告書 原稿	定性的データを収集する	60分
25	報告書の作成・発表③	有価証券報告書 原稿	報告書の分析視角から構成を決める	60分
26	報告書の作成・発表④	有価証券報告書 原稿	報告書の本論を執筆する。	60分

27	報告書の作成・発表⑤	有価証券報告書 原稿	報告書の本論を執筆する。	60分
28	報告書の提出	有価証券報告書 原稿	報告書を完成させる。	60分
29	報告書発表会①	有価証券報告書 原稿	各自の報告書を発表するための原稿作り	60分
30	報告書発表会②	有価証券報告書 原稿	各自の報告書を発表するための原稿作り	60分

⑪ アクティブラーニングについて

協同学修型 AL を採用する。自分が分析する企業の有価証券報告書を読み、レジュメにまとめて報告する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性

令和3(2021)年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ (Seminar Ⅲ) 263045-14000					担当教員	西俣 先子 (ニシマタ ヒロコ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 知識定着・確認型 AL / 協同学修型 AL / 課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要

環境・農業・地域の問題について幅広く理解するとともに、各ゼミ生の興味あるテーマを掘り下げていく。文献の輪読、必要があれば、インタビュー調査なども行い、知見を得る。修得した能力を活用し、問題提起等を行う応用力を身につける科目である。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力

③ 授業の進め方・指示事項

報告等の担当になった場合、準備を行うこと。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

⑤ 標準的な達成レベルの目安

- (i) 環境・農業・地域の問題について自分なりの視点を持つことができる。
- (ii) 環境・農業・地域の問題について他人に説明できるようになる。

⑥ テキスト (教科書)

テキスト指定なし。ゼミナールの学生の意見を聞いて指定する。
必要に応じて資料を配布する。

⑦ 参考図書・指定図書

大学図書館の西俣先子の推薦図書のコーナーを確認すること。

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合				50% *レジュメ等の課題も含む		50%		100%
(i) 環境・農業・地域の問題について自分なりの視点を持つことができる。				25%		25%		50%
(ii) 環境・農業・地域の問題について他人に説明できるようになる。				25%		25%		50%
フィードバックの方法	レポート・レジュメはチェックし、コメントする。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
学生の自主性を重んじ、サポートする形で授業を進める。

⑩ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）
1	オリエンテーション		シラバスを熟読し授業の目的を理解したうえで授業に参加する 10分
2	取り組むテーマの検討		各自担当回にゼミナールで取り組むテーマを考えてくる 60分
3	取り組むテーマの検討		各自担当回にゼミナールで取り組むテーマを考えてくる 60分
4	取り組むテーマの検討		各自担当回にゼミナールで取り組むテーマを考えてくる 60分
5	取り組むテーマの絞り込み		各自担当回にゼミナールで取り組むテーマを考えてくる 60分
6	取り組むテーマの決定		ゼミナールで取り組むテーマをどれに絞るかを考えてくる 60分
7	取り組むテーマについての企画を検討する		決定したゼミナールのテーマに関して企画を考えてくる 60分

8	取り組むテーマについての企画を検討する		決定したゼミナールのテーマに関して企画を考えてくる	60分
9	取り組むテーマについての企画を検討する		決定したゼミナールのテーマに関して企画を考えてくる	60分
10	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う	60分
11	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う	60分
12	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う	60分
13	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う	60分
14	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う	60分
15	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う	60分
16	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
17	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
18	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
19	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
20	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
21	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
22	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分

23	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
24	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
25	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
26	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
27	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
28	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
29	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
30	取り組むテーマの情報収集と報告		ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分

⑪ アクティブラーニングについて

ゼミナールで決めたテーマについてグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行い、考察を深める。必要に応じてフィールドワークも実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性



令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ（Seminar Ⅲ） 263045-14000					担当教員	牧野 智一 （マキノ トモカズ）		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 知識定着・確認型 AL / 協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要									
<p>牧野ゼミナールⅢでは、財政のテキストの輪読を通し、国あるいは地方の財政と私たちの暮らしの関わりについて学習します。財政について経済学的なアプローチにより考えることで、普段あまり意識はしないが私たちと深いかかわりを持っている税金や行政サービスなどの重要性や問題点に関心を持ち、私たちの暮らしと政府あるいは地方自治体との関係を考察します。</p> <p>また、ゼミコンパやゼミ旅行など様々なイベントを学生諸君に企画してもらい、ゼミ生同士が大学を卒業した後もお互いに支え合えるような生涯の友人関係を構築できることを目指します。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
ゼミ生による発表形式で授業を行う。各ゼミ生は割り当てられた教科書の担当箇所の内容をパワーポイントにより報告資料を作成し、授業ではプレゼンテーションを行う。事前準備を怠ると、授業の進行に支障をきたし、他のゼミ生に迷惑をかけることをしっかりと認識し、責任感を持って授業に臨むこと。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「財政学」の知識を有すること。									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
<p>(i) 報告資料をしっかりと作成できる。</p> <p>(ii) プレゼンテーションを行うことができる。</p> <p>(iii) 財政に関する基本的な知識について説明できる。</p> <p>(iv) 日本の財政の現状について考察することができる。</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
『図説日本の財政（令和2年度版）』 財経詳報社									
⑦ 参考図書・指定図書									
<p>竹内信仁編(2013)『スタンダードミクロ経済学』中央経済社</p> <p>竹内信仁編(2013)『スタンダードマクロ経済学』中央経済社</p>									

竹内信仁編著(2007)『スタンダード財政学 第2版』中央経済社

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合					50%	30%	20%	100%
(i) 報告資料をしっかりと作成できる。					10%	6%	5%	21%
(ii) プレゼンテーションを行うことができる。					10%	6%	5%	21%
(iii) 財政に関する基本的な知識について説明できる。					15%	9%	5%	29%
(iv) 日本の財政の現状について考察することができる。					15%	9%	5%	29%
フィードバックの方法	プレゼンテーションに対し、適宜アドバイスをを行う。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL を採用し、学生諸君が主体的に学修することを意識した授業を目指して行く。

⑩ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）
1	オリエンテーション	教科書、筆記用具	担当箇所の内容理解と報告準備 60分
2	日本の財政の概況	教科書、筆記用具	日本の財政の概況についての理解 60分
3	財政状況の国際比較	教科書、筆記用具	他国と比較した日本の財政の状況の理解 60分
4	これまでの財政状況	教科書、筆記用具	これまでの財政状況の推移の理解 60分

5	財政の課題	教科書、筆記用具	日本の財政の課題についての考察	60分
6	財政健全化に向けた努力	教科書、筆記用具	財政健全化に向けた動きの理解	60分
7	財政とはなにか	教科書、筆記用具	財政の役割についての理解	60分
8	財政の3機能	教科書、筆記用具	財政の3機能についての理解	60分
9	財政学の歴史	教科書、筆記用具	財政学の歴史の歴史についての理解	60分
10	財政赤字に関する議論	教科書、筆記用具	財政赤字に関する議論の理解	60分
11	課税をめぐる議論	教科書、筆記用具	課税をめぐる議論の理解	60分
12	予算制度	教科書、筆記用具	予算制度についての理解	60分
13	国の収入の概要	教科書、筆記用具	国の収入の概要についての理解	60分
14	平成30年度予算編成の背景と概要	教科書、筆記用具	平成30年度予算編成の背景と概要の理解	60分
15	平成30年度復興特別会計予算	教科書、筆記用具	平成30年度復興特別会計予算の理解	60分
16	社会保障	教科書、筆記用具	社会保障制度に関する理解と考察	60分
17	文教及び科学技術の振興	教科書、筆記用具	文教及び科学技術の振興に関する理解と考察	60分
18	社会資本の整備	教科書、筆記用具	社会資本の整備に関する理解と考察	60分
19	経済協力	教科書、筆記用具	経済協力に関する理解と考察	60分
20	防衛力の整備	教科書、筆記用具	防衛力の整備に関する理解と考察	60分
21	中所企業施策の推進	教科書、筆記用具	中所企業施策の推進に関する理解と考察	60分
22	農林水産業の振興	教科書、筆記用具	農林水産業の振興に関する理解と考察	60分
23	エネルギー・地球温暖化対策の推進	教科書、筆記用具	エネルギー・地球温暖化対策の推進に関する理解と考察	60分

24	国債費及び国債管理政策	教科書、筆記用具	国債費及び国債管理政策に関する理解と考察	60分
25	地方財政	教科書、筆記用具	地方財政と国の財政の関係の理解と考察	60分
26	予算制度改革	教科書、筆記用具	予算制度改革に関する理解と考察	60分
27	財政投融资	教科書、筆記用具	財政投融资に関する理解	60分
28	国庫金制度	教科書、筆記用具	国庫金制度に関する理解	60分
29	税制	教科書、筆記用具	税制に関する理解	60分
30	まとめ	教科書、筆記用具	各回の内容の整理と理解	60分

⑪ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL を採用する。ゼミ生によるテキストの内容報告やディスカッションを行い、学修効果の向上に活用する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性

令和3(2021)年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ (SeminarⅢ) 263045-14000					担当教員	喬 雪氷 (キョウ セツヒョウ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 課題解決型 AL / 外部講師招聘科目								

① 授業のねらい・概要									
本ゼミナールは、地域活性化に貢献することを基本とし、各自の課題発見能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力の3つを身に付けることを目標とする。実践的な活動として、1つ目は、株式会社きものブレインのブランド商品の販売戦略をシミュレーションする。2つ目は、十日町を拠点に「きもの文化村」構想の企画案を展開してみる。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢/職業人として通用する能力/コミュニケーション能力/専門的知識・技能を活用する能力/情報収集・分析力を育成する									
③ 授業の進め方・指示事項									
基本的にゼミ生による発表形式で授業を行う。ゼミで取り組む課題を設定し、各自分担役割を決め、資料収集・分析、企画書作成、調査研究報告書の作成、成果の発表というプロセスを経て授業を進めていく。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
「ゼミナールⅠ前・後」「ゼミナールⅡ」									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
(i)課題を発見し情報収集する能力 (ii) 企画書を提案し実行する能力 (iii) 報告書を作成し発表する能力									
⑥ テキスト(教科書)									
指定なし。必要に応じてレジュメを配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
必要に応じて関連した本を紹介する。									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法									
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計	

総合評価割合			10%		50%	40%		100%
(i) 課題を発見し情報収集する能力			10%		10%	10%		30%
(ii) 企画書を提案し実行する能力					20%	20%		40%
(iii) 報告書を作成し発表する能力					20%	10%		30%
フィードバックの方法	授業内で、各自の発表に対して全員で討議することにより企画書と報告書を再検討する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）

ゼミでは、「一期一会」という言葉が表すように、御縁を大切に、青春時代の 2 年間で仲間と一緒に楽しく成長することを目指しましょう。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	オリエンテーション、自己紹介、課題設定についての討議	筆記用具	コラボしたい課題を考えてくる	60分
2	自ら興味を持つ課題の資料を基に、スピーチを行う	筆記用具、必要な資料・PC	スピーチの準備	60分
3	情報・資料収集・発表	筆記用具、必要な資料・PC	各自役割分担した内容について調査する	60分
4	情報・資料収集・発表	筆記用具、必要な資料・PC	各自役割分担した内容について調査する	60分
5	情報・資料収集・発表	筆記用具、必要な資料・PC	各自役割分担した内容について調査する	60分
6	企画書作成	筆記用具、必要な資料・PC	企画書作成	60分
7	企画書作成	筆記用具、必要な資料・PC	企画書作成	60分
8	企画書を実行するシミュレーション	筆記用具、必要な資料・PC	企画書作成	60分
9	企画書を実行するシミュレーション	筆記用具、必要な資料・PC	企画書作成	60分
10	企画書の再検討&企業との打ち合わせ	筆記用具、必要な資料・PC	企画書作成	60分

11	企画書の再検討&企業との打ち合わせ	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書作成	60分
12	企画書の再検討&企業との打ち合わせ	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書作成	60分
13	企画書の再検討&企業との打ち合わせ	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書作成	60分
14	企画書の再検討&企業との打ち合わせ	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書作成	60分
15	半期の振り返り	筆記用具、 必要な資料・PC	各自発表の準備	60分
16	夏休みを振り返り、前期のまとめと後期の予定報告	筆記用具、 必要な資料・PC	各自の発表	60分
17	悠久祭打ち合わせ&企画書作成	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書作成	60分
18	悠久祭打ち合わせ&企画書作成	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書作成	60分
19	悠久祭打ち合わせ&企画書作成	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書作成	60分
20	悠久祭準備活動	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書の実行	60分
21	悠久祭振り返り、地域活性化発表会に向けたプレゼン資料の作成と発表練習	筆記用具、 必要な資料・PC	プレゼン資料作成	60分
22	地域活性化発表会に向けたプレゼン資料の作成と発表練習	筆記用具、 必要な資料・PC	プレゼン資料作成	60分
23	地域活性化発表会に向けたプレゼン資料の作成と発表練習	筆記用具、 必要な資料・PC	プレゼン資料作成	60分
24	地域活性化発表会の練習	筆記用具、 必要な資料・PC	プレゼン資料作成	60分
25	活動報告書指導	筆記用具、 必要な資料・PC	活動報告書作成	60分
26	活動報告書指導	筆記用具、 必要な資料・PC	活動報告書作成	60分
27	活動報告書指導	筆記用具、 必要な資料・PC	活動報告書作成	60分
28	活動報告書指導	筆記用具、 必要な資料・PC	活動報告書作成	60分

29	活動報告書指導	筆記用具、 必要な資料・PC	活動報告書作成	60分
30	一年間の振り返り	筆記用具、 必要な資料・PC	活動報告書作成	60分

⑪ アクティブラーニングについて				
授業内で、各自の発表に対して全員で討議することにより企画書と報告書を再検討する。必要に応じて、インタビュー調査・助言・指導を行う。				

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の概要				
国際コンサルティング業務の経験を持ち、中国中央テレビ局ドキュメンタリー制作会社の依頼より、日本での撮影取材交渉に携わるほか、中日企業の業務取引提携の斡旋なども行った。				
実務経験と授業科目との関連性				
課題設定、企業ヒアリング、企画書作成などあらゆる面において、国際コンサルティングの経験を活かすことができる。				

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ（Seminar Ⅲ） 263045-14000					担当教員	高島 幸成 （タカシマ コウセイ）		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目／知識定着・確認型 AL／協同学修型 AL／課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要									
<p>本ゼミナールは学生による地域活性化プログラム参加ゼミの一つとして、地域の子供に対するプログラミング教育に取り組む。ゼミナールでは学生がプログラミング教育を地域の子供に実施する過程で、プログラミングとアルゴリズム思考、教育イベントの企画・運営を通じた協働経験、教育経験を通じたコミュニケーション能力の習得を狙いとする。プログラミング技能の習得については教員側でサポートをするが、地域の子供に対するプログラミング教育のイベントや内容などは学生が主体となって企画・運営を行っていく。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
<p>地域活性化プログラムとして地域への貢献を通して課題解決・問題解決について取り組む。従って、以下の5つの項目すべてに関連する。</p> <p>地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力</p>									
③ 授業の進め方・指示事項									
<p>週1回の授業時間は実績報告、及び方針の打ち合わせや計画の決定が主となる。</p> <p>授業時間外において、自己学習（プログラミング）、グループワーク（教材作成）を行う。</p> <p>また、実際の教育活動として後期に教育イベントの開催を行う。</p>									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
<p>コンピュータリテラシー1、2は習得、あるいは習得しているレベルに達していることが必須。</p> <p>また、表計算ソフト利用技術を習得しておくことが望ましい。</p>									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
<p>(i) プログラミングの基礎理解とアルゴリズム思考ができる</p> <p>(ii) プログラミングを理解し、初心者に対してプログラミング教育の補助ができる</p> <p>(iii) 教材を作成し、教育イベントの内容を計画し、実際に運営することができる</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
<p>特になし。参考資料などは授業中に配布する。</p>									
⑦ 参考図書・指定図書									
<p>ゼミナールの時間に必要に応じて、適宜提示する。</p>									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			30%		50%	20%		100%
(i) アルゴリズム思考で考えることができる			20%			10%		30%
(ii) プログラミング教育の補助を行うことができる			10%		20%	5%		35%
(iii) 教育イベントを計画し、実際に運営できる					30%	5%		35%
フィードバックの方法	(i)については10回目頃を目安に課題の取り組み状況を見て評価を通知する。(ii)および(iii)については実際の教育イベントの実施、及び成果発表会における発表、成果報告書の内容のそれぞれについて評価を通知する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
前半は授業時間外の自主的な学習が非常に重要になります。また、中盤以降の教育イベントの企画・運営については可能な限り主体的な取り組みを評価していきます。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	オリエンテーション	筆記具	配布資料の確認と読み込み	60分
2	プログラミング学習① Scratchの基礎	筆記具・提出物 ・参考資料	授業内容の復習、及び課題の実施	180分
3	プログラミング学習② 順次、反復	筆記具・提出物 ・参考資料	授業内容の復習、及び課題の実施	180分
4	プログラミング学習③ 条件分岐	筆記具・提出物 ・参考資料	授業内容の復習、及び課題の実施	180分
5	プログラミング学習④ オリジナルプログラム製作	筆記具・提出物 ・参考資料	授業内容の復習、及び課題の実施	180分
6	プログラミング学習⑤ 模擬授業練習1	筆記具・提出物 ・参考資料	授業内容の復習、及びオリジナルプログラムの製作	180分

7	プログラミング学習⑥ 模擬授業練習 2	筆記具・提出物 ・参考資料	授業内容の復習、及びオリジナルプログラム の製作	180分
8	プログラミング教室の計画① グループ割り・企画	筆記具・提出物 ・参考資料	プログラミング教室の計画書作成	120分
9	プログラミング教室の計画② 役割分担・企画	筆記具・提出物 ・参考資料	プログラミング教室の計画書作成	120分
10	教材作成① 教材計画・サンプルコード作成	筆記具・提出物 ・参考資料	教材の作成	180分
11	教材作成② 教材作成・手順作成	筆記具・提出物 ・参考資料	教材の作成	180分
12	教材作成③ 教材作成・手順作成	筆記具・提出物 ・参考資料	教材の作成	180分
13	教材作成④ 中間報告	筆記具・提出物 ・参考資料	教材の作成	180分
14	教室参加者募集の方法検討① 開催時期・応募方法などの計画	筆記具・提出物 ・参考資料	応募用のフレームワーク構築	60分
15	教室参加者募集の方法検討② 募集用チラシの内容作成	筆記具・提出物 ・参考資料	募集用のチラシ作成	60分
16	プログラミング教室準備① 参加者の確認	筆記具・提出物 ・参考資料	必要教材の作成 参加人数の集計と開催日時の返送	180分
17	プログラミング教室準備② 会場設営と教材の確認	筆記具・提出物 ・参考資料	必要教材の作成 授業のリハーサル	180分
18	プログラミング教室準備③ 授業のリハーサル	筆記具・提出物 ・参考資料	必要教材の作成 会場設営	180分
19	プログラミング教室準備④ 会場設営と教材の確認	筆記具・提出物 ・参考資料	必要教材の作成 会場設営	180分
20	教室実施結果のフィードバック① 実施内容の振り返り	筆記具・提出物 ・参考資料	実施内容の振り返り 実施報告書の作成	120分
21	教室実施結果のフィードバック② 実施報告書の作成	筆記具・提出物 ・参考資料	実施内容の振り返り 実施報告書の作成	120分
22	成果報告会発表準備① 役割分担決定	筆記具・提出物 ・参考資料	成果報告会発表用資料作成	180分
23	成果報告会発表準備② 資料作成	筆記具・提出物 ・参考資料	成果報告会発表用資料作成	180分
24	成果報告会発表準備③ 発表リハーサル	筆記具・提出物 ・参考資料	成果報告会発表用資料作成	180分

25	成果報告会振り返り	筆記具・提出物 ・参考資料	成果報告会の反省点を踏まえて発表用資料を再修正	60分
26	成果報告書作成① 役割分担	筆記具・提出物 ・参考資料	成果報告書作成	180分
27	成果報告書作成② 書類作成	筆記具・提出物 ・参考資料	成果報告書作成	180分
28	成果報告書作成③ 分担箇所の相互評価	筆記具・提出物 ・参考資料	成果報告書作成	180分
29	成果報告書作成④	筆記具・提出物 ・参考資料	成果報告書作成	180分
30	フィードバックと次年度計画	筆記具	次年度の内容の計画作成	60分

⑪ アクティブラーニングについて	
知識定着・確認型 AL については前半部分で学ぶプログラミングについて、主として毎回の課題と中盤以降作成する教材の内容にフィードバックをすることで実施する。また、協同学修型 AL・課題解決型 AL については教育イベント、報告会、報告書でグループ毎に役割を分担し、目標を達成していくことで実施する。	

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅣ（Seminar Ⅳ） 264046-14000					担当教員	鯉江 康正 （コイエ ヤスマサ）		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目／課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要

本ゼミナールは、本学の教育プログラムの一つである「学生による地域活性化プログラム」として実施する。したがって、ゼミでは、①問題解決型教育＝体験・参加型教育の実践として、②「まちの駅」をテーマとしてとりあげ、③ゼミ生と学外アドバイザーとの緊密な連携をとり、④専門知識とスキルを応用してフィールド調査等の作業を行い、⑤地域活性化に貢献することを目的として活動していく。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力を養う／情報収集・分析力を養う。

③ 授業の進め方・指示事項

授業時間外においても学生グループでヒアリング活動、ボランティア等への参加を行うことがあり、これらの活動について報告書の作成と提出を求める。すべてグループワークとなるので、他のメンバーに迷惑をかけないこと。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

特になし

⑤ 標準的な達成レベルの目安

(i) 社会人基礎力を養う（前に踏み出す力：主体性を持って行動できるようになる。考え抜く力：課題を発見し、それに対する解決策を考えられるようになる。チームで働く力：社会のルールや人との約束を守ることは当然のこととして、相手の話を丁寧に聴きつつ、自分の意見を伝えられるようになる。

(ii) 地域社会に貢献するとともに、感謝される行動をする。

(iii) 活動を正確に伝えられる報告書の作成。

⑥ テキスト（教科書）

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

⑦ 参考図書・指定図書

過去のゼミ活動報告書								
⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			70%			30%		100%
(i) 社会人基礎力を養う			20%			10%		30%
(ii) 地域社会に貢献するとともに、感謝される行動をする。			20%			10%		30%
(iii) 活動を正確に伝えられる報告書の作成。			30%			10%		40%
フィードバックの方法	提出された報告書等は、添削して返却する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
できる限る学生の自主性に任せるつもりではあるが、課題の提出等厳しく対処するようにする。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	オリエンテーション		ゼミ名簿、授業予定・アルバイト予定表の作成	30分
2	これまでのゼミの取り組み紹介	昨年度の報告書	過年度活動の理解と確認事項の洗い出し	60分
3	活動計画の作成	昨年度の報告書	活動内容の検討を行ってこること	30分
4	実課題への取り組み①（活動計画の決定）	前回までの決定事項資料	活動計画書の作成	90分
5	実課題への取り組み②（ヒアリング準備）	前回までの決定事項資料	ヒアリング先へのアポイントメント	90分
6	実課題への取り組み③（ヒアリング結果の確認）	前回までの決定事項資料	学園祭での企画の検討。「まちの駅」へのヒアリング調査。	90分
7	実課題への取り組み④（ヒアリング結果の確認）	前回までの決定事項資料	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	120分

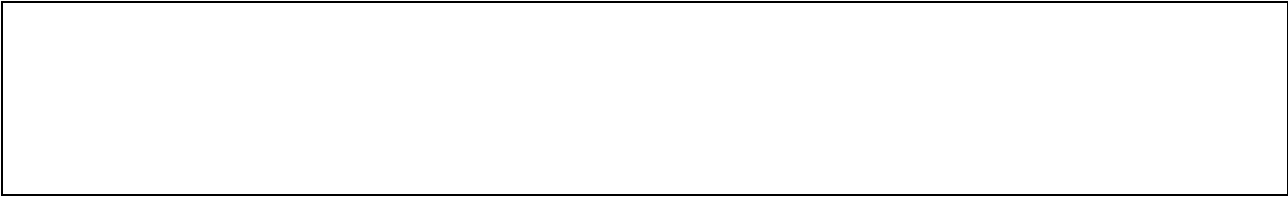
8	実課題への取り組み⑤（オール新潟まちの駅大会企画の概略検討）	前回までの決定事項資料	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	120分
9	実課題への取り組み⑥（オール新潟まちの駅大会企画の詳細検討）	前回までの決定事項資料	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	120分
10	実課題への取り組み⑦（ヒアリング結果の確認）	前回までの決定事項資料	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	120分
11	実課題への取り組み⑧（ヒアリング結果の確認）	前回までの決定事項資料	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	120分
12	中間レビューに向けた準備活動①（ヒアリング結果の整理）	前回までの決定事項資料	各自の担当箇所の資料作成	60分
13	中間レビューに向けた準備活動②（発表資料の作成）	前回までの決定事項資料	ゼミ生による発表資料の調整	90分
14	中間レビューに向けた準備活動③（発表原稿の作成）	前回までの決定事項資料	発表資料・原稿の作成	90分
15	中間レビューに向けた準備活動④（発表の練習）	前回までの決定事項資料	「とうきび観音まつり」への参加（ボランティア）	300分
16	◆中間レビュー	前回までの決定事項資料	中間レビューを受けての今後の活動方針の決定	30分
17	実課題への取り組み⑨（中間レビューからの気づき）	前回までの決定事項資料	オール新潟まちの駅大会の準備	90分
18	実課題への取り組み⑩（オール新潟まちの駅大会の準備）	前回までの決定事項資料	オール新潟まちの駅大会の実施	240分
19	実課題への取り組み⑪（オール新潟まちの駅大会からの気づき）	前回までの決定事項資料	ボランティア、オール新潟まちの駅大会の報告書作成	120分
20	実課題への取り組み⑫（学園祭準備）	前回までの決定事項資料	学園祭の実施	360分
21	実課題への取り組み⑬（学園祭のまとめと気づきの整理）	前回までの決定事項資料	ハロウィンみつけへの参加（ボランティア）	300分
22	実課題への取り組み⑭（ハロウィンみつけのまとめと気づきの整理）	前回までの決定事項資料	今町ハロウィンへの参加（ボランティア）、成果発表会資料の作成	300分
23	成果発表会に向けた準備活動①（今町ハロウィンのまとめと	前回までの決定事項資料	越路マップの配布（ボランティア）、成果発表会資料の作成	240分

	気づきの整理)			
24	成果発表会に向けた準備活動②(越路マップ配布のまとめと気づき)	前回までの決定事項資料	成果発表会資料の作成	90分
25	成果発表会に向けた準備活動③(成果発表会の準備)	前回までの決定事項資料	成果発表会の予行練習	120分
26	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成①(成果発表会のまとめと気づき)	前回までの決定事項資料	報告書目次案の作成と担当分担の検討	90分
27	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成②(報告書の作成)	前回までの決定事項資料	各自の報告書担当分の作成	60分
28	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成③(報告書の作成)	前回までの決定事項資料	各自の報告書担当分の修正	60分
29	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成④(報告書の修正)	前回までの決定事項資料	報告書の全体調整	120分
30	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成⑤(報告書の完成)	前回までの決定事項資料	報告書の最終チェック	30分

⑪ アクティブラーニングについて
課題解決型 AL を採用する。課題をゼミ生自らが発見し、協働でフィールドワークを実施し、社会人基礎力を養っていく。最終的には活動報告という形で報告書を作成する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性



令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅣ (Seminar Ⅳ) 264046-14000					担当教員	米 山 宗 久 (ヨネヤマ ムネヒサ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単 位 数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 知識定着・確認型 AL / 協同学修型 AL / 課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要									
福祉実践者としての視点から、現状の支援施策を検証するとともに、実際に各自が希望する福祉分野にボランティアとして参加し課題の発見やニーズ抽出を学修することを目的とする。さらにそれを解決する方策を考察して提案する能力を習得することを目標とする。ゼミ学生が必要と考えている福祉支援を中心に検証を行う。また、ゼミ生の希望を取り入れて福祉分野全般への取り組みも行う。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
社会福祉を理解するため、市職員・関係施設・ボランティア団体から福祉に必要なサービスや心配ごとなどを学修する。さらに、課題検討・フィールドワーク・ディスカッションを行う。また、子育て支援施設などでのボランティア活動も行う。グループに分かれて、現状を検証しつつ、問題点・解決策を導き出す。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
(i) 地域社会の実情を把握すること (ii) 団体との協働活動ができること (iii) 専門的知識を活用した行動ができること (iv) 自分の意見や他者の考えを理解したコミュニケーションができること (v) 課題解決に向けた情報収集や対策が提案できること									
⑥ テキスト（教科書）									
テキスト指定なし。代わりに、参考書を配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
長岡市（2015）『子ども・子育て支援計画（子育て・育ち“あい”プラン）』 長岡市（2016）『子育てガイドー妊娠期から小学生までー』									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			35%		35%	30%		100%
(i) 地域社会の実情を把握すること			7%		7%	6%		20%
(ii) 団体との協働活動ができること			7%		7%	6%		20%
(iii) 専門的知識を活用した行動ができること			7%		7%	6%		20%
(iv) 自分の意見や他者の考えを理解したコミュニケーションができること			7%		7%	6%		20%
(v) 課題解決に向けた情報収集や対策が提案できること			7%		7%	6%		20%
フィードバックの方法	情報共有のため、活動報告会を2回、社協主催のボランティア報告会にも参加する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
<p>積極的な行動が行えるように、役割分担を行う。その際はゼミ生の話し合いで決定する。卒論やレポート作成の指導も行う。ゼミ学生の自主性を尊重した活動とする。</p> <p>コミュニティセンター・子育ての駅・高齢者施設でボランティアの参加も行う。</p> <p>自主企画書を作成し、実践も行う。</p>

⑩ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）
1	イントロダクション	配布資料	ボランティアの意義を理解 30分
2	施設見学	配布資料	長岡市の子育て駅を理解 60分
3	グループ別活動計画	配布資料	ボランティアグループの決定 60分
4	卒論指導（1）	配布資料	背景・現状の考察 60分

5	卒論指導（2）	配布資料	背景・現状の考察	60分
6	卒論指導（3）	配布資料	背景・現状の考察	60分
7	ゼミ独自の子育て支援の計画 協議	配布資料	独自イベントに向けた検討	60分
8	卒論指導（4）	配布資料	背景・現状の考察	60分
9	卒論指導（5）	配布資料	背景・現状の考察	60分
10	卒論指導（6）	配布資料	背景・現状の考察	60分
11	卒論指導（7）	配布資料	課題・対策の考察	60分
12	卒論指導（8）	配布資料	課題・対策の考察	60分
13	卒論指導（9）	配布資料	課題・対策の考察	60分
14	卒論指導（10）	配布資料	課題・対策の考察	60分
15	卒業論文中間発表	配布資料	卒論の考察	60分
16	イントロダクション	配布資料	夏休み中の活動報告	60分
17	施設見学	配布資料	長岡市の子育て駅を理解	60分
18	ゼミ独自の子育て支援の計画 協議	配布資料	支援計画の最終協議	60分
19	卒論指導（11）	配布資料	課題・対策の考察	60分
20	卒論指導（12）	配布資料	課題・対策の考察	60分
21	卒論指導（13）	配布資料	課題・対策の考察	60分
22	卒論指導（14）	配布資料	課題・対策の考察	60分
23	卒業論文中間発表	配布資料	卒論の考察	60分

24	卒論指導（15）	配布資料	課題・対策の考察	60分
25	卒論指導（16）	配布資料	課題・対策の考察	60分
26	卒論指導（17）	配布資料	課題・対策の考察	60分
27	卒論指導（18）	配布資料	論文全体の構成	60分
28	卒論指導（19）	配布資料	論文全体の構成	60分
29	卒論指導（20）	配布資料	論文全体の構成	60分
30	卒業論文発表	配布資料	卒論の考察	60分

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL では、長岡市役所の「各種福祉計画」のフィードバックを行う。協同学修型 AL では、関係専門職やボランティアとのディスカッションを行う。課題解決型 AL では、関係施設をフィールドワークして支援内容を検証する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設では、生活保護・障害者福祉・高齢者福祉・ひとり親家庭福祉・児童福祉・介護保険制度や児童館に関わる行政業務、ボランティア支援・市民協働活動・福祉教育に関わる地域福祉・ソーシャルワーク業務、利用者の処遇・生活支援・相談業務に関わる利用者支援業務に従事してきた。また、行政計画である「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」「介護保険計画」「障害者計画」の計画策定を行った。さらに「長岡市高齢者保健福祉推進会」「長岡市地域包括支援センター運営部会」「長岡市福祉有償運送運営協議会」「長岡市福祉施設指定管理者選定委員会」「長岡市男女共同参画審議会」「長岡市障害者施策推進協議会」「長岡市民生委員推薦会」などの委員を歴任している。

実務経験と授業科目との関連性

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設における経験から、子ども子育て分野、高齢者分野、障害者分野、地域福祉分野と関わりある支援や政策、つながりの意義や目的、活動内容や影響力、さらに活動における課題を学生に伝えることができる。

たとえば、高齢者支援における住民参加、子育て家庭における孤立化防止、障害者の社会参加などの必要性を伝えることができる。

また、各種行政計画においても、地域交流の現状と課題・問題点が明記されている。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状と課題をまとめたり、課題解決策を導き出す能力を養うことができる。

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅣ（Seminar Ⅳ） 264046-14000					担当教員	広田 秀樹 （ヒロタ ヒデキ）		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 学生参加型 AL								

① 授業のねらい・概要									
グラスルーツグローバル化という地域活性化プログラムに取り組む。具体的には、第1に地域の外国人の方等をゼミに招待し意見交換を行う。第2に外国人の方等が集まる場を訪問し活発な交流を深める。第3に上記活動を切っ掛けに、知的学習を深化させ知見・視野を拡大する。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力									
③ 授業の進め方・指示事項									
ゼミの「グラスルーツグローバル化・地域活性化プログラム」の10年以上の伝統から概略を理解した上で、学生自身がチームを組み大胆かつ自主的に新しい企画で、進めること。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
地域経済論									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
(i) グローバル化と地域の関係を理解できること。 (ii) グローバルな知見・視野を拡大すること。 (iii) グローバル化のファクターを地域発展に取り込む戦略を提言できること。									
⑥ テキスト（教科書）									
学習資料を配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
スティーブン・カースルズ、マーク・J・ミラー（関根政美・関根薫訳）（2011）『国際移民の時代』名古屋大学出版会									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			10%	25%	40%	25%		100%
(i) グローバル化と地域の 関係の理解			10%		10%	10%		30%
(ii) グローバル関連知見・				10%	20%	10%		40%

視野拡大								
(iii) 地域発展戦略の提言				15%	10%	5%		30%
フィードバックの方法	レポート等に助言をつけ討論資料として紹介する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）	
人口構造の激変を中心要因に地域は生き残り、勝ち残りを迫られている。若者特有の固定観念、通説を打ち破るエネルギー、潜在力を引き出すようなゼミを、引き続きつくって行きたい。	

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	イントロダクション・ブレインストーミング		ブレインストーミングの内容に関するレポート	120分
2	グラスルーツグローバリゼーションとは何か	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
3	宇宙史的スケール、人類史的スケールの視点	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
4	ゼミへの招待活動Ⅰ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
5	ゼミへの招待活動Ⅱ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
6	ゼミへの招待活動Ⅲ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
7	ゼミへの招待活動Ⅳ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
8	招待活動の振り返り	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
9	地域での交流活動Ⅰ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
10	地域での交流活動Ⅱ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
11	地域での交流活動Ⅲ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
12	地域での交流活動Ⅳ	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分
13	交流活動の振り返り	配布参考資料・課題資料	関連考察レポート	120分

14	中間レビューの準備	配布参考資料・ 課題資料	関連考察レポート	120分
15	中間レビュー	配布参考資料・ 課題資料	関連考察レポート	180分
16	中間レビューの振り返り	配布参考資料・ 課題資料	関連考察レポート	120分
17	Learning by Stimulation of Globalization (LSG) とは何か	配布学習資料・ 課題資料	自学自習課題の設定に関するレポート	120分
18	LSGによる学習と発表Ⅰ	配布学習資料・ 課題資料	自学自習課題関連レポート報告の準備作業	180分
19	LSGによる学習と発表Ⅱ	配布学習資料・ 課題資料	自学自習課題関連レポート報告の準備作業	180分
20	LSGによる学習と発表Ⅲ	配布学習資料・ 課題資料	自学自習課題関連レポート報告の準備作業	180分
21	LSGによる学習と発表Ⅳ	配布学習資料・ 課題資料	自学自習課題関連レポート報告の準備作業	180分
22	成果発表会準備Ⅰ	配布参考資料・ 課題資料	自学自習関連レポートとグランドプレゼン関係性考察のレポート	120分
23	成果発表会準備Ⅱ	配布参考資料・ 課題資料	グランドプレゼン・コンテンツ準備	180分
24	成果発表会準備Ⅲ	配布参考資料・ 課題資料	グランドプレゼン・コンテンツ準備	180分
25	成果発表会の振り返り	配布参考資料・ 課題資料	グランドプレゼン実行に関する考察レポート	120分
26	報告書作成分担	配布参考資料・ 課題資料	自学自習関連レポートと報告書関係性考察のレポート	120分
27	報告書作成作業Ⅰ	配布参考資料・ 課題資料	報告書分担部分作成	180分
28	報告書作成作業Ⅱ	配布参考資料・ 課題資料	報告書分担部分作成	180分
29	報告書作成作業Ⅲ	配布参考資料・ 課題資料	報告書分担部分作成	180分
30	まとめ	配布参考資料・ 課題資料	自分の総合的レベルアップの考察に関するレポート	120分

⑪ アクティブラーニングについて

学生参加型ALを採用する。「指示待ち」ではなく、学生がチームを編成した上で、自主的に課題を考察し、具体的な戦略、戦術を計画し、実行するスタイルを徹底する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性

令和2（2020）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅣ（Seminar Ⅳ） 264046-14000					担当教員	石川英樹 （イシカワ ヒデキ）		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目／課題解決型AL／協同学修型AL								

① 授業のねらい・概要									
<p>栃尾高校の生徒の皆さんと協働し、地域イベント活性化、地域の魅力発信などに取り組む。具体的な内容は、随時栃尾高校の先生方・生徒の皆さんとの打ち合わせを経て確定し取り組んでいく。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
<p>地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を育成する授業である。</p>									
③ 授業の進め方・指示事項									
<p>①栃尾地域のツアー開発、②栃尾地域PRにつながる商品開発、③栃尾地域雁木通りの空き家活用策の企画と実施、にそれぞれ取り組む。取り組み項目の詳細は、地域の方々との協議結果などにより変更があり得る。</p>									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
「ゼミナールⅠ（前）」「ゼミナールⅠ（後）」「ゼミナールⅡ」									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
<p>(i) 地域課題解決の取組を通じた社会人基礎力を向上しことを、他者に示せる。 (ii) 地域貢献を実現し、地域の方々から評価いただける。 (iii) 卒業後の進路を切り開く力を培い、自身の進路選択について説明できる。</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
特に指定しない。毎回レジュメを配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
必要に応じて授業中に随時紹介する。									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			20%	10%	20%	30%	20%	100%
(i) 社会人基礎力を向上				5%	10%			15%
(ii) 地域貢献を実現			10%	5%		30%	20%	65%
(iii) 卒業後の進路を切り			10%		10%			20%

開く力								
フィードバックの方法	毎回の授業で、討論の成果等について講評する。ルーブリックを活用し評価を共有する。レポートは評価し返却。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
学生の活動進捗・授業改善提案などを確認しながら講義を進めていく。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	オリエンテーションと前年度の振り返り	筆記用具	前年度の振り返りの整理。活動概要の検討。課題レポートの作成	60分
2	前年度の課題を踏まえた取り組み内容の確認、グルーピング	筆記用具	次週の栃尾高校との共同授業の準備	60分
3	栃尾高校との共同授業①（グループ分けと自己紹介）、雁木通り空き家活用チームの情報収集	筆記用具	次週のディスカッション準備	60分
4	栃尾高校との共同授業②（栃尾地域資源のアイデア出し）、雁木通り現状の情報収集の続き、	筆記用具	栃尾地域の様々な資源について情報収集、ふりかえりレポート作成	60分
5	商品開発、ツアープラン、空き家活用策の企画のアイデア出し	筆記用具	PR すべき栃尾地域の地域資源の検討、空き家活用策関連の情報収集	60分
6	商品開発、ツアープラン、空き家活用策のアイデア出しの続きと整理	筆記用具	PR すべき栃尾地域の地域資源の検討、空き家活用策関連の情報収集	60分
7	栃尾高校との共同授業③（商品開発／ツアーチーム別打ち合わせ）、雁木通りチームの打ち合わせ	筆記用具	ディスカッションふりかえりレポートの作成、次週のための情報収集と整理	60分
8	商品開発・ツアープランの企画の案作り、雁木通り空き家活用策の企画案作成	筆記用具	関連情報の整理、案のフローチャート作業	60分
9	栃尾高校との共同授業④（商品開発／ツアーチーム別案づくり議論）、雁木通りチームの企画案取りまとめ	筆記用具	ディスカッションふりかえりレポートの作成、案のフローチャート作業	60分

10	チーム別の企画案の作成	筆記用具	関連情報の整理、案のフローチャート作業	60分
11	栃尾高校との共同授業⑤（商品開発／ツアーチーム別素案完成と発表）、雁木通りチームの素案完成と発表	筆記用具	素案の振り返りと詳細についての詰め	60分
12	チーム別の企画案の詳細検討	筆記用具	関連情報の整理、案のフローチャート作業	60分
13	チーム別の企画案の詳細検討結果の報告と議論	筆記用具	中間報告の作成	60分
14	イベント参加の計画づくり、雁木通りチームの提案書概要議論	筆記用具	中間報告の作成	60分
15	イベント参加の計画づくり、雁木通りチームの提案書作成作業	筆記用具	中間報告の作成	60分
16	イベントのふりかえり・バスツアー案の完成、雁木通りチーム提案書の実行プラン検討	筆記用具	商品開発・販売、バスツアー案の完成、雁木通り空き家活用案の改善点検討	60分
17	中間報告会の準備	筆記用具	中間報告の資料・原稿作成	120分
18	中間報告会の実施	筆記用具	中間報告のふりかえりレポート作成	60分
19	栃尾高校学園祭等への参加準備、ツアーPR 活動の検討、雁木通りチームの行政等との議論	筆記用具	学園祭等参加の準備作業、ツアーPR 資料の作成、雁木通りチームの提案書確認	60分
20	栃尾高校学園祭等のふりかえりと悠久祭参加準備、ツアーPR と参加者募集策の検討、雁木通り空き家活用プランの実行資料作成	筆記用具	悠久祭の準備作業、ツアーPR 雁木通りチームの実行資料案の作成	60分
21	悠久祭ふりかえり、ツアー実施の準備、雁木通り空き家活用策の実行資料の詰め	筆記用具	悠久祭ふりかえりレポート作成、ツアー実施準備作業、雁木通りチームの実行資料案の改善検討	60分
22	バスツアー実施（商品開発チーム、雁木通りチームとの協働）	筆記用具	バスツアーのふりかえりレポート作成、商品化改善の課題整理、雁木通りチームの実行資料案の改善検	60分

			討	
23	バスツアー（試行版）の振り返り、商品開発・販売の振り返り	筆記用具	成果発表会のためのポイント整理	60分
24	成果発表会の準備～発表内容の打ち合わせ	筆記用具	プレゼンテーション資料の作成作業	90分
25	成果発表会の準備～発表資料類の調整	筆記用具	プレゼンテーション資料の完成と発表原稿の作成	90分
26	中間報告会～成果発表会の準備の仕上げ	筆記用具	発表原稿の完成と発表の練習	90分
27	成果発表会のふりかえり、次年度の課題の抽出	筆記用具	報告書原稿の執筆	120分
28	成果報告書原稿作成～個人別作業	筆記用具	報告書原稿の執筆	120分
29	成果報告書原稿作成～チーム別作業	筆記用具	報告書原稿の執筆	120分
30	成果報告書原稿作成～全体での調整	筆記用具	報告書の原稿完成	120分

⑪ アクティブラーニングについて
課題解決型 AL 及び協同学修型 AL を採用する。共同でフィールドワークを実施し、社会人基礎力を培っていく。年度後半に、成果報告会での発表と成果報告書の作成を共同で行う。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性

令和3(2021)年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	山川智子ゼミナールⅣ (SeminarⅣ) 264046-14000					担当教員	山川 智子 (ヤマカワ トモコ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目／課題解決型AL／外部講師招聘科目								

① 授業のねらい・概要									
<p>今年度ゼミテーマは『危機管理』である。「世の中のしくみはどのようになっているのか？ 自分たちの生活や生命を守るために必要な知識や情報は何か？」と考えを具体化する。『危機管理』では、医学・医療・福祉・防犯・防災・日常的なコミュニケーション・金銭や情報のリテラシーなど、事例の紹介やシミュレーションなどを通して、広く役に立つ実際的な問題を取り上げる。心理学・行動経済学・基礎法学・メンタルヘルスマネジメントが年間を通じての知識の土台となる。</p> <p>地方公務員（市役所や県警等）を希望する学生に限らず、「自分の価値を高め、現在以上に力をつけたい！」と真摯に望む学生には、現在の実力を踏まえたゆえで、試験攻略のための個別指導も行う。公務員や各種の採用試験や優良企業への就職試験に合格しうる実をつけるためにも地域の特色を把握し、地域の住民の安全を守るための社会のしくみ、特に防犯・防災を軸に、ひとのいのちを守る行動について考える。4年生前期は就活に集中して、後期は卒論作成を念頭に取り組む。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力									
③ 授業の進め方・指示事項									
身近なところから各地域の特性を感じ取り、社会のしくみと地域との関わりを理解する。社会情勢も踏まえ、自分や周囲の人たちの生命と安全を優先した行動を心がける。自分自身の価値を高めるにはどうすればいいか？と自問自答して最適解を求めてゆく。周囲とのコミュニケーションを大事にしたアサーティブな関係構築を目指す。思考体力をつけることと、基礎学力を盤石にすることによって、公務員試験や優良企業への就職試験にも備える。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
地域の特色を把握することや時事問題を軸とした報告レポート・プレゼンテーションも併せて行う。									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
<p>(i) 卒論を書くのに必要な文章表現の型を学び、800字程度に意見を随時まとめられるようになる。</p> <p>(ii) 自分自身の強みをより尖らせるため、戦略的な思考を身に付けて、行動計画へと落とし込む。</p> <p>(iii) 地域の特色や社会情勢を把握して、卒論テーマの選択研究調査活動のやりかたを体得する。</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
<p>必要に応じてレジュメや参考資料を配布する。以下2冊は頻繁に活用するので購入を勧める。</p> <p>樺沢 紫苑『精神科医が教えるストレスフリー超大全』（2020）ダイヤモンド社</p>									

『公務員試験 速攻の時事 令和3年度対応』(2021) 実務教育出版

⑦ 参考図書・指定図書

齋藤 孝『超速読力』(2019) ちくま新書

伊沢 拓司『ひとりひとりにフィットする1からの勉強法』(2020) KADOKAWA

布施川天馬『東大式節約勉強法』(2020) 実務教育出版

東大ケーススタディ研究会『東大生が書いた問題を解く力を鍛えるケース問題ノート』、『現役東大生が書いた地頭を鍛えるフェルミ推定ノート』(2009) 東洋経済新報社

佐藤雅彦・菅俊一・高橋秀明『ヘンテコノミクス』(2017)マガジンハウス

ポーポー・ポロダクション『マンガでわかる行動経済学』(2014) SBクリエイティブ

吉本佳生『NHK 出社が楽しい経済学 DVDブック 1~4』(2009) 日経 BP 社

真壁昭夫『行動経済学見るだけノート』(2018) 宝島社

鎌田浩輝『せまりくる天災とどう向き合うか』(2015) ミネルヴァ書房

ダン・アリエリー他『アリエリー教授の「行動経済学」入門」お金篇』(2018) 早川書房

上記以外にも、必要に応じて随時紹介する。大学図書館内のゼミ担当の推薦図書や防災関連コーナーにある本も参考にして欲しい。

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			30%	40%		30%		100%
(i) 思考体力の醸成			10%	10%		10%		30%
(ii) 行動経済学の知見			10%	10%		10%		30%
(iii) 研究調査の基礎			10%	20%		10%		40%
フィードバックの方法	出席票や解答用紙は、原則返却しない。確認・添削後、修正すべきポイントや評点を知らせる。							

⑨ 担当教員からのメッセージ (昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)

無断欠席は厳禁。ゼミの『鉄の掟』である。出席管理を厳格に行うのは出席不良による失格を未然に防ぎ、評価向上につなげる危機管理である。キャリア開発など就職に関連した科目と、当大学が推奨している資格を目指す科目には、積極的に取り組むことを勧める。自分が目指したいものを極力具体的に考えて欲しい。役割分担や課題内容を明確にして、学生の自主性をなるべく尊重したい。

⑩ 授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間 (分)
1	オリエンテーション～明確化：オンライン授業を味方にする	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。 60分

2	ゼミナール大喜利～スピード感を持って切り返す訓練	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
3	オンライン授業へのカスタマイズ：ITリテラシーと最適化	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
4	行動経済学の視点と実践① サンクコストと各種バイアス	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
5	行動経済学の視点と実践② プロスペクト理論と損失回避	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
6	心の会計と大学錬金術① お金で泣かない大人になれ！	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
7	心の会計と大学錬金術② クラウドファンディングの罠	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
8	地域でのリスクを考える① 街中の意外と危険な場所は？	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
9	地域の特色を知って味わう① 地元の穴場・地域の避難所	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
10	地域の特色を知って味わう② 災害は忘れた頃にやってくる	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
11	ゼミ内活動企画プレゼン① 自分のためのお楽しみ企画	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
12	ゼミ内活動企画プレゼン② みんなで楽しめそうな企画	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
13	研究テーマ企画書の仕上げ セルフテンプレートのススメ	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
14	地域でのリスクを考える② 自分の身近な場所を観察する	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
15	前期のゼミ活動の振り返り 夏休みの課題と将来の問題	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
16	夏期休暇とゼミ活動報告会 何はなくても無事がよい	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
17	地域特性と調査活動① バリアフリーと利便性	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
18	地域特性と調査活動② SNS活用による話題性	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
19	地域でのリスクを考える③ 健康を守るための取り組み	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分
20	メンタルヘルスと健康経営① ヤバいストレスの正体を知る	配布資料と筆記用具	配布されたスライド資料や課題を中心に取り組み、理解を深める。	60分

21	メンタルヘルスと健康経営② 働きかた改革と過重労働対策	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
22	行動経済学のトピックス① フレーミング効果と判断基準	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
23	行動経済学のトピックス② ナッジがもたらす行動特性	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
24	行動経済学のトピックス③ ヒューリスティックを活用	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
25	行動経済学のトピックス④ 合理的な判断と失敗から学ぶ	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
26	地域でのリスクを考える④ 将来的な変化に想いを馳せる	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
27	研究テーマの絞り込み① 卒業論文の完成に向けて	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
28	研究テーマの絞り込み② 卒業論文の完成に向けて	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
29	自己PRとプレゼンテーション 卒業論文の発表会	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分
30	後期のゼミ活動の振り返り 終わりよければすべてよし	配布資料と筆記 用具	配布されたスライド資料や課題を 中心に取り組み、理解を深める。	60分

⑪ アクティブラーニングについて	
<p>課題の提出による学生参加型ALを採用する。毎回テーマに即した問いかけをして、寄せられた結果について次回以降に解説と考察を行い、学修内容をフィードバックする。インプットとアウトプットのバランスを考え、課題内容をもとに各自で調べてまとめる作業を従来よりも増やす。オンライン授業でもアサーティブなやりとりを目指す。ケースメソッドの手法を取り入れ、事象の読み解きと問題解決に向けた能力の向上を図る。</p>	

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅣ（SeminarⅣ） 264046-14000					担当教員	権 五景 （グオン オーギョン）		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 学生参加型AL / 協同学修型AL / 課題解決型AL / 外部講師招聘科目								

① 授業のねらい・概要
地域資源の活用こそ、地域経済の発展につながるという考え方の下で地域活性化のために活動している。活性化の対象としているのは「十分杯」である。十分杯は広報活動と動画制作に力を入れる。十分杯のブームを起こすことを目標とし、その火付け役になれるよう情報生産に力を入れていく。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
①地域社会に貢献する姿勢 / ②職業人として通用する能力 / ③専門的知識・技能を活用する能力 ④コミュニケーション能力 / ⑤情報収集・分析力
③ 授業の進め方・指示事項
活動の理由を各自が自覚するためと目標に到達するためのディスカッションと、学外での活動を中心に進める。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
なし
⑤ 標準的な達成レベルの目安
(i) 地域の歴史と現状について他人に説明できるようになる。 (ii) 歴史絡みの観光資源の開発で地域社会を盛り上げることである。 (iii) この2つの目的を達成していくにあたって、文献研究、広報活動、関係団体との打ち合わせ等々を行っていく。この一連の活動によって、①思考力、②説明力、③行動力、④物事を進める力、⑤提案力が大いに鍛えられる。
⑥ テキスト（教科書）
なし
⑦ 参考図書・指定図書
なし

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			15%	30% (報告 書)	40% (ゼミ 活動)	15%		100%
(i) 地域の歴史と現状			5%	10%	15%	5%		35%
(ii) 地域社会を盛り上げる			5%	15%	20%	5%		45%
(iii) 社会人基礎力			5%	5%	5%	5%		20%
フィードバックの方法	毎回前回の活動について議論する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
余裕を持って活動できるように努めたい。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	地域活性化論の考察		議論を図にする。	90分
2	地域資源の事例探し		1つの事例を見つけ、写真と文章をA4サイズで1枚に整理する	90分
3	これまでの活動説明	昨年度の報告書	十分杯の魅力について、各自の考えをまとめる。	90分
4	郷土史料館見学		日本一古い十分杯を見た感想を800字程度に作成する。	90分
5	教訓と文学作品		十分杯の教訓と繋がる文学作品を調べる。	90分
6	世界と長岡藩と十分杯との関わり		当時がわかる資料を探し出す。	90分
7	実験と仕組み		自分の言葉で説明できるように台本を作成する。	90分
8	実験道具作り		大気圧説を証明するための道具を作る。	90分
9	フィレンツェ地域のワイン・マーケティング戦略と十分杯		日本における地域合同ブランドを調べる。	90分

10	知足十分杯の製作		製作を行う。	90分
11	イベントでの広報資料と方法		時間配分と必要道具について800字程度に作成する。	90分
12	動画制作の企画		取材の準備を行う。	90分
13	取材		取材を行う。	90分
14	動画編集①		動画編集を行う。	90分
15	動画編集②		動画編集を行う。	90分
16	動画制作の企画		取材の準備を行う。	90分
17	取材		取材を行う。	90分
18	動画編集①		動画編集を行う。	90分
19	動画編集②		動画編集を行う。	90分
20	中間レビュー		中間レビューを行う。	90分
21	動画制作の企画		取材の準備を行う。	90分
22	取材		取材を行う。	90分
23	動画編集①		動画編集を行う。	90分
24	動画編集②		動画編集を行う。	90分
25	成果発表会準備		原稿を修正し、練習する。	90分
26	成果発表会準備		原稿を修正し、練習する。	90分
27	報告書作成		原稿を修正する。	90分
28	報告書作成		原稿を修正する。	90分

29	報告書作成		原稿を修正する。	90分
30	1年の活動を振替える。		後輩へ伝えたいものを記録として残す。	90分

⑪ アクティブラーニングについて				
全回、学生参加型 AL、課題解決型 AL、協同学修型 AL で行う。課題を履修生自らが発見し、協同で文献研究及び地域への提案事項を検討していく。悠久祭や地域活性化プログラム成果発表会等でプレゼンテーションを行い、活動内容をまとめて報告書を作成する。				

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の概要				
実務経験と授業科目との関連性				

令和3(2021)年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅣ (Seminar Ⅳ) 264046-14000					担当教員	栗井 英大 (クリイ ヒデヒロ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 課題解決型 AL / 外部講師招聘科目								

① 授業のねらい・概要

長岡市には、例えば食料品・機械器具・金属製品・繊維など、他地域に誇れる産業・企業が存在している。しかし、PR不足を主因に、認知度が低い産業・企業も少なくない。その結果、市内企業に就職する学生も限定的である。そこで、長岡市の優れた産業・企業の認知度を高める活動を行う。

まず、統計資料・HP等を参考に、長岡市の産業とその特徴、代表的な企業とその企業の強み、ビジネスモデル等の知識を得る。次に、積極的に企業見学・ヒアリングを行い、現場を見る・聞く・考えることで、産業・企業への理解を深める。その後、それまでの活動内容を基に、産業・企業の誇れる点、すなわち「強み」を探し出し、そのPR手法を検討・実行する。

加えて、企業経営・ビジネスモデルに関する知識の深化と実践を目的として、ビジネスプランを自ら構築する演習・発表等を行い、その成果をビジネスコンテスト・起業関連コンテストへ応募することを推奨する。

長岡市の産業・企業の知識習得、「強み」発見、「見える化」の過程を通して、社会人基礎力を高めていく。また、「5つの力」(聴く力・話す力・書く力・考える力・時間力)を鍛え、就職活動に資する力、社会人に必要な基本スキルを高める。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

①地域社会に貢献する姿勢 / ②職業人として通用する能力 / ③専門的知識・技能を活用する能力 / ④コミュニケーション能力 / ⑤情報収集・分析力を養う。

③ 授業の進め方・指示事項

正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない。
学生の意見を取り入れつつ講義を進める。積極的な意見表明を期待する。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

「地域活性化論」「起業家塾」

⑤ 標準的な達成レベルの目安

- (i) 長岡の鉄工業を理解・説明することができる。
- (ii) オープンファクトリーの手法を理解・説明・実践することができる。
- (iii) アンケート調査手法を理解・説明・実践することができる。

⑥ テキスト（教科書）
テキスト指定なし。必要に応じて授業時に資料を配布する。
⑦ 参考図書・指定図書
須田寛（2015）『産業観光ーものづくりの観光』交通新聞社 その他、テーマに関連した参考文献や関連情報を必要に応じ紹介する。

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			30%	30%	30%	10%		100%
(i) 長岡の鉄工業の理解・ 説明			10%	10%	10%	3%		33%
(ii) オープンファクトリ ーの手法の理解・説明・実 践			10%	10%	10%	4%		34%
(iii) アンケート調査手法 の理解・説明・実践			10%	10%	10%	3%		33%
フィードバックの方法	初回講義内で、成績評価の方法・基準、講義の進め方等について、具体的に説明するので、出席すること。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
学生の理解度・適性を確認しながら、運営していく。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	ゼミⅢ・Ⅳの概要説明 自己紹介	筆記用具	昨年の取組確認 90分	
2	今年の活動内容決定 工場見学準備	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討 90分	
3	工場見学①（予定） 長岡市内製造業	筆記用具 ノート	ヒアリングシート作成 90分	

4	工場見学振り返り きもの gottaku 視察準備	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討	90分
5	きもの gottaku 視察準備 鉄工青研セミナー準備	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討	90分
6	きもの gottaku 振り返り	筆記用具 ノート	ヒアリングシート作成	90分
7	鉄工青研セミナー準備	筆記用具 ノート	発表準備	90分
8	工場見学準備 製造業へのアンケート調査	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討	90分
9	工場見学②（予定） 長岡市内製造業	筆記用具 ノート	ヒアリングシート作成	90分
10	工場見学振り返り 悠久祭出店検討	筆記用具 ノート	悠久祭出店準備	90分
11	工場見学準備	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討	90分
12	工場見学③（予定） 長岡市内製造業	筆記用具 ノート	ヒアリングシート作成	90分
13	工場見学準備 場見学振り返り	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討	90分
14	工場見学④（予定） 長岡市内製造業	筆記用具 ノート	ヒアリングシート作成	90分
15	工場見学振り返り ビジネスプランの作成	筆記用具ノート ビジネスプラン	ビジネスプランの作成	90分
16	後期の活動内容確認 「工場の祭典」視察準備	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討	90分
17	「工場の祭典」視察準備	筆記用具 ノート	ヒアリング先調査、質問検討	90分
18	悠久祭準備 製造業へのアンケート調査	筆記用具 ノート	悠久祭準備 アンケート票作成	90分
19	悠久祭準備 製造業へのアンケート調査	筆記用具 ノート	悠久祭準備 アンケート票作成	90分
20	悠久祭準備 製造業へのアンケート調査	筆記用具 ノート	悠久祭準備 アンケート票作成	90分
21	発表会準備（パワポ作成）	筆記用具 ノート	発表用パワーポイント作成	90分
22	発表会準備（パワポ作成）	筆記用具 ノート	発表用パワーポイント作成	90分

23	発表会準備（発表練習）	筆記用具 ノート	発表用パワーポイント作成	90分
24	中間レビュー	筆記用具 ノート	発表練習	90分
25	発表会準備（発表練習）	筆記用具 ノート	発表練習	90分
26	報告書作成	筆記用具 ノート	報告書作成	90分
27	報告書作成	筆記用具 ノート	報告書作成	90分
28	報告書作成	筆記用具 ノート	報告書作成	90分
29	報告書作成	筆記用具 ノート	報告書作成	90分
30	報告書作成	筆記用具 ノート	報告書作成	90分

⑪ アクティブラーニングについて

協同学習型 AL を採用する。

資料調査・企業ヒアリングを基にした発表・ディスカッション等を通じて、学生自ら産業・企業の強み・課題を探求し、製造業の「見える化」案を構築する。

また、ビジネスプランの作成、ブラッシュアップ、ビジネスコンテストへの参加により、ビジネスモデルの知識の実践を目指す。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

平成 15（2003）年 3 月～平成 24（2012）年 6 月まで、(財)新潟経済社会リサーチセンターに在籍。研究員として、新潟県経済の調査分析および業界動向等の調査レポート作成業務に従事した。

実務経験と授業科目との関連性

県内外の地域活性化事例に触れ、各種レポート作成に携わった経験を生かし、長岡地域を活性化すべく、活動を行っていく。

令和3(2021)年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ゼミナールⅣ (SeminarⅣ)					担当教員	生島 義英 (イクシマ ヨシヒデ)		
科目コード	264046-14000								
科目区分	ゼミナール科目	必修・選択区分	必修	単位数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目／協同学習型 AL／課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要

「長岡市撰田屋の魅力を高め、観光客を増やそう。」をテーマに掲げ、長岡市の地域活性化策を研究する。

本ゼミナールでは「歴史ある醸造のまち」長岡市撰田屋地区に焦点を絞り、どうすれば観光客を増加させることができるのかを経営学をはじめとする様々な側面から研究する。

3年次に分析した結果を踏まえ、撰田屋地区の活性化に対する具体的な戦略を構築し、地域活性化策を立案し、具体的な実行計画を策定する。

これらの研究を進めるにあたり、必要なマーケティングや課題解決などをはじめとする経営学の手法、統計学の手法、まちづくりの手法、ITの積極的活用、エリアマネジメント手法などについて自発的かつ能動的な学習をすることとなる。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

地域の課題に取り組みことにより、地域社会に貢献する姿勢を育成する。

地域研究を推し進めるため、専門的知識・技能を活用する能力を高め、研究を推進する。

地域の住民や連携する組織と相互コミュニケーションを図る機会が多く設けられるため、コミュニケーション能力の向上が図られる。

問題解決のため、仮説を立てそのための情報収集を行い、データの分析・解析を行うため情報収集能力と分析力が高められる。

③ 授業の進め方・指示事項

共通の目的・目標を明確に示したうえでゼミナール内をチーム編成し、それぞれのチームに対しミッションを与え、そのミッションを達成することを目標に活動する。

チーム間の情報共有化を図るため、定例会を設定しゼミナールメンバー全員が、各チームの取り組み内容や進捗状況を把握できる体制を確立する。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

経営学／現代経営／マネジメント1/マネジメント2

マーケティング関連科目、統計学関連科目、コンピュータ関連科目など

⑤ 標準的な達成レベルの目安

(i) 対象となる地域の歴史的経緯や発展の過程を把握することができる

(ii) 対象となる地域の現状と課題を把握することができる。

(iii) 4年次修了時点で地域の課題抽出とその課題解決案を策定することができる。

⑥ テキスト (教科書)

必要に応じてその都度指示する。
⑦ 参考図書・指定図書
必要に応じてその都度指示する。

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			30%		50%	20%		100%
(i)対象となる地域の歴史的経緯や発展の過程を把握			15%		25%	10%		50%
(ii)対象となる地域の現状と課題を把握			15%		25%	10%		50%
(iii)対象となる地域の現状と解決策の策定								
フィードバックの方法	ゼミナール定例会において、取組内容を発表することによりチームごとに振り返りを行い、方向性・取組み内容の指導を行う。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
より実践的で具体的な解決策が提案できるように指導していきたい。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	イントロダクション	配布資料・参考資料	配布資料の復習	60分
2	摂田屋地区の研究① 各チーム取組内容の提示	配布資料・参考資料・成果物	課題の取組みとワークの復習 チーム課題への取組	180分
3	摂田屋地区の研究② チーム課題の研究	配布資料・参考資料・成果物	チーム課題への取組	180分
4	摂田屋地区の研究③ チーム課題の研究	配布資料・参考資料・成果物	チーム課題への取組	180分
5	摂田屋地区の研究④ チーム課題の研究	配布資料・参考資料・成果物	チーム課題への取組 進捗報告書作成	180分
6	摂田屋地区の研究⑤ チーム課題の進捗報告	配布資料・参考資料・成果物	チーム課題への取組	180分

7	摂田屋地区の研究⑥ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
8	摂田屋地区の研究⑦ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
9	摂田屋地区の研究⑧ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 進捗報告書作成	180分
10	摂田屋地区の研究⑨ チーム課題の進捗報告	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
11	摂田屋地区の研究⑩ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
12	摂田屋地区の研究⑪ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
13	摂田屋地区の研究⑫ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 進捗報告書作成	180分
14	摂田屋地区の研究⑬ チーム課題の進捗報告	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
15	摂田屋地区の研究⑭ チーム課題プレゼンの準備	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
16	摂田屋地区の研究⑮ チーム課題プレゼンの準備	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
17	中間レビュー	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
18	摂田屋地区の研究⑯ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 進捗報告書作成	180分
19	摂田屋地区の研究⑰ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組	180分
20	摂田屋地区の研究⑱ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
21	摂田屋地区の研究⑲ チーム課題の研究	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
22	摂田屋地区の研究⑳ 発表会プレゼンの準備	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
23	摂田屋地区の研究㉑ 発表会プレゼンの準備	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
24	摂田屋地区の研究㉒ チーム課題プレゼンの準備	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
25	摂田屋地区の研究㉓ チーム課題のとりまとめ	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 報告書作成	180分

26	摂田屋地区の研究⑳ チーム課題のとりまとめ	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 報告書作成	180分
27	摂田屋地区の研究㉑ チーム課題のとりまとめ	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 報告書作成	180分
28	摂田屋地区の研究㉒ チーム課題のとりまとめ	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 報告書作成	180分
29	摂田屋地区の研究㉓ チーム課題のとりまとめ	配布資料・参考 資料・成果物	チーム課題への取組 報告書作成	180分
30	摂田屋地区の研究㉔ チーム課題の成果報告	配布資料・参考 資料・成果物	継続案件の後輩へ引き継ぎ書面作 成とめ	180分

㉕ アクティブラーニングについて

地域志向科目／協同学習型 AL／課題解決型 AL を実施する。

具体的には、チーム単位で対象地域に出向き、調査研究を行うことにより、協同型学習を推し進めるとともに、地域の課題を見出し、その解決策を具体的に思考することにより課題解決能力を高める。

※以下は該当者のみ記載する。

㉖ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

昭和 63 年（1988 年）4 月から平成 31 年（2019 年）3 月まで 31 年間民間企業に在籍し、在籍期間中は、情報システム部門においてシステム設計と運用など、物流管理部門において新規仕組みの構築と運用改善・物流教育など、人事労務管理部門において制度設計や法令変更対応、組合との交渉など、総務部門において株主総会・取締役会の事務局運営やコンプライアンスなどの業務に従事した。実務担当者、管理職、グループ企業の取締役の経験など様々なマネジメント業務に携わった。

実務経験と授業科目との関連性

担当者としての実務経験や部門長として管理職経験、役員経験を活かし、実務経験がなく、実務を想像しにくい学生に対して、より実務的に具体的にビジネスの企画・具現化・改善などの一連のプロセスを教授することができる。

現場で発生している問題など具体的な事例をもとに、課題解決策の策定などについて、興味深く説明することができる。

令和3(2021)年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅣ(Seminar Ⅳ) 264046-14000					担当教員	吉川 宏之 (ヨシカワ ヒロユキ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目／協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要
携帯電話、携帯ゲーム機など、コンピュータは身近な所で利用されています。これらの機能やサービスを調べることから始めていきます。基本を理解した上で、「身近な地域にどんなサービスがあれば便利か」を考えていきます。最近、スマートフォンの普及で便利な点も増えてきましたが、ウイルスや個人情報の漏洩など、問題も多くなっています。これらの点もふまえて検討していきたいと思います。コンピュータ室で実際にコンピュータを使いながら、新しい機器、サービスの利用方法などのグループディスカッションを含めて進めていきます。また、アルゴリズム(プログラム)の基本となる「判断分岐」、「繰り返し」についてパズルなどを利用して理解を深め、簡単なプログラムの作成を行っていく予定です。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力
③ 授業の進め方・指示事項
課題などの作成のために、パソコンが必要になります。学校のコンピュータを使用できますが、自宅にあると作業がはかどります。プレゼンテーションを何度か行います。PowerPoint 以外のソフトウェアでもかまいません。プレゼンテーションは内容が重要です。発表方法は各自くふうしてください。プログラムやプレゼンテーションなどの課題を期限までに作成しておくこと。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
⑤ 標準的な達成レベルの目安
インターネットを活用し、自分で考えて Word、Excel、PowerPoint 等を組み合わせ、適切な資料の作成とプレゼンテーションを行える実力を養うことを目標とします。 (i) 5分程度のプレゼンテーション資料の作成 (ii) 5分程度のプレゼンテーション (iii) 50行程度のプログラム作成
⑥ テキスト (教科書)
⑦ 参考図書・指定図書

--

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合				20%	50%	30%		100%
(i) 5分程度のプレゼンテーション資料の作成					20%	10%		30%
(ii) 5分程度のプレゼンテーション				5%	20%	10%		35%
(iii) 50行程度のプログラム作成				15%	10%	10%		35%
フィードバックの方法	プログラムやプレゼンテーションなどの課題のフィードバックを行う。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
<p>プレゼンテーションの回数を増やし、自分の考えを相手に伝える方法（コミュニケーション能力のひとつ）の向上をはかる。</p> <p>遠隔による授業参加を考慮し、グループワークは後期から取り入れていく。</p>

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	概要の説明 遠隔で授業を受ける場合の注意事項		授業内容を復習し、次回の授業受講のために準備を行う。	30分
2	自己紹介を兼ねた地域の紹介 プレゼンテーションの説明		プレゼンテーション作成	30分
3	地域の紹介プレゼンテーションの作成 1		プレゼンテーション作成	30分
4	地域の紹介プレゼンテーションの作成 2		プレゼンテーションの発表準備	60分
5	地域の紹介プレゼンテーションの発表		発表の振り返り	30分
6	プログラミングパズル 1(アルゴリズム)		パズルの振り返り	60分

7	プログラミングパズル 2(アルゴリズム)		パズルの振り返り	60分
8	プログラミングパズル 3(blockly)		パズルの振り返り	60分
9	プログラミングの基礎 1(Scratch)		プログラミングの振り返り	30分
10	プログラミングの基礎 2(Scratch)		プログラミングの振り返り	30分
11	プログラミングの基礎 3(Scratch)		課題作成の準備	30分
12	課題(ゲームなど)の作成 1(Scratch)		課題作成	30分
13	課題(ゲームなど)の作成 2(Scratch)		課題作成	30分
14	課題(ゲームなど)の作成 3(Scratch)		課題発表の準備	60分
15	課題の発表と前半のまとめ		前期の振り返り	30分
16	プログラミングパズル		パズルの振り返り	30分
17	プレゼンテーション作成 1		プレゼンテーションの資料作成	30分
18	プレゼンテーション作成 2		プレゼンテーションの発表準備	60分
19	プレゼンテーション発表		プレゼンテーションの振り返り	30分
20	テーマ課題 1 作成 1(Scratch)		課題作成	30分
21	テーマ課題 1 作成 2(Scratch)		課題作成	30分
22	テーマ課題 1 作成 3(Scratch)		課題発表の準備	60分
23	テーマ課題 1 発表(Scratch)		発表の振り返り	30分
24	プレゼンテーション作成		プレゼンテーションの発表準備	60分
25	プレゼンテーション発表		プレゼンテーションの振り返り	30分

26	テーマ課題 2 作成 1		課題作成	30 分
27	テーマ課題 2 作成 2		課題作成	30 分
28	テーマ課題 2 作成 3		課題発表の準備	60 分
29	テーマ課題 2 発表		課題発表の振り返り	30 分
30	まとめ		全体の振り返り	30 分

⑪ アクティブラーニングについて	
協同学修型 AL を採用する。演習問題を課し、調査結果を持ち寄ってグループディスカッションを行う(2 回程度)。作成したプログラムを、互いに比較しながら動作の違い、使いやすさ、見栄えの違いなどの検証をおこなう(2 回程度)。	

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ゼミナールⅣ (Seminar Ⅳ)					担当教員	坂井 一貴 (サカイ カズタカ)		
科目コード	264046-14000								
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	協同学習型 AL / 課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要

右肩上がりではない社会、および情報化が進展し社会変化が大きい現在において、課題に対して客観的なデータを基に、解決できるのではないかと具体的な案を考え、実現するための流れ、手法について修得することを目的とする。

具体的には、行政や民間シンクタンク等が多くの統計データ、アンケート調査を利用し、データ処理を行いそこから有用な情報を見つける技術力・思考力を身につける。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力 を養う。

③ 授業の進め方・指示事項

地域や社会における課題を客観的データを利用し解決策を考えていく。そのためには、日常的に社会に関心を持ち情報収集をすることが必要であることから、新聞やニュース・政府 Web サイトなどの有用な情報ソースを日々チェックをする。併せて、成果を出そうとすればゼミ以外の時間帯も利用して主体的にデータ分析やその結果に対するディスカッション等を進めることが必要である。

また、オフラインだけでなく slack を用いたオンライン上での活動も予定している。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

統計学, Excel や PowerBI などのデータ処理ソフトウェア・ツールなどを主体的に学修する。

⑤ 標準的な達成レベルの目安

- (i) 各種統計データなどを適切な供給先を選択して、データを収集することができる。
- (ii) 収集したデータを Microsoft Excel®などを用いて、有用な情報として加工することができる。
- (iii) データを加工して得られた情報から、社会課題に対しての具体的な解決案を自ら考えることができる。

⑥ テキスト（教科書）

特になし 「政府統計の総合窓口 e-Stat」や「RESAS 地域経済分析システム」などの Web サイトを主に活用する。

⑦ 参考図書・指定図書

Microsoft Excel®の関数辞典や PowerBI などのツール、またはプログラム言語に関する書籍全般。

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			60%		40%			100%
(i) データ収集ができる			20%		10%			30%
(ii) データ加工ができる			30%		10%			40%
(iii) 解決案を考えられる			10%		20%			30%
フィードバックの方法								

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
昨年度担当なし

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	ゼミの進め方と オンラインツールの確認	パソコンまたは 通信デバイス (BYOD)	オンラインツールの準備 Excel 等の必要な 知識・技能修得のための学修	60分
2	政府統計サイトの確認と データ収集・CSV データ処理	パソコンまたは 通信デバイス	Excel 等の必要な 知識・技能修得のための学修 地域社会の課題を複数考える	60分
3	政府統計サイトの確認と データ収集・CSV データ処理	パソコンまたは 通信デバイス	Excel 等の必要な 知識・技能修得のための学修 地域社会の課題を複数考える	60分
4	地域社会の課題についての ディスカッション	パソコンまたは 通信デバイス	課題解決に関連するデータを 各種サイトから調べ ダウンロードする	60分
5	地域社会の課題についての ディスカッション	パソコンまたは 通信デバイス	課題解決に関連するデータを 各種サイトから調べ ダウンロードする	60分
6	地域社会の課題についての 解決案仮説設定	パソコンまたは 通信デバイス	課題解決に関連するデータを 各種サイトから調べ ダウンロードする	60分
7	課題解決案を導き出すための 年間スケジュール作成	パソコンまたは 通信デバイス	課題解決に関連するデータを 各種サイトから調べ ダウンロードする	60分
8	データ収集および加工	パソコンまたは 通信デバイス	収集したデータに意味を 持たせられるように加工する	60分

9	データ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
10	地域社会の課題についての解決案仮説検証	パソコンまたは通信デバイス	課題解決に関連するデータを各種サイトから調べダウンロードする	60分
11	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
12	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
13	地域社会の課題についての解決案仮説再検証	パソコンまたは通信デバイス	課題解決に関連するデータを各種サイトから調べダウンロードする	60分
14	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
15	地域社会の課題についての解決案仮説再検証	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
16	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
17	地域社会の課題についての解決案仮説再検証	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
18	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
19	地域社会の課題についての解決案仮説再検証	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
20	成果発表会に向けた資料作成	パソコンまたは通信デバイス	発表用スライドの作成	60分
21	成果発表会に向けた資料作成	パソコンまたは通信デバイス	発表用スライドの作成	60分
22	成果発表会に向けた発表準備	パソコンまたは通信デバイス	発表時に原稿を持たず自らの言葉で具体的に説明できるための準備をする	60分
23	成果発表会に向けた発表準備	パソコンまたは通信デバイス	発表時に原稿を持たず自らの言葉で具体的に説明できるための準備をする	60分
24	成果発表会に向けた発表準備	パソコンまたは通信デバイス	発表時に原稿を持たず自らの言葉で具体的に説明できるための準備をする	60分
25	活動報告書の作成	パソコンまたは通信デバイス	読み手に確実に伝わる独り善がりではない報告書にするための推敲を行う	60分

26	活動報告書の作成	パソコンまたは通信デバイス	読み手に確実に伝わる 独り善がりではない報告書にするための推敲を行う	60分
27	活動報告書のレビュー	パソコンまたは通信デバイス	レビューによる指摘点を報告書に反映させる	60分
28	活動報告書の作成	パソコンまたは通信デバイス	レビューによる指摘点を報告書に反映させる	60分
29	活動報告書のゼミ内発表会	パソコンまたは通信デバイス	今年度の活動を振り返り、 全体として、または個人としての改善点を洗い出す	60分
30	1年間の振り返り	パソコンまたは通信デバイス	長期で何か物事を取組む際に どのようなことに注意して取組むべきかを考え社会人に備える	60分

⑪ アクティブラーニングについて	
<p>ゼミのため、すべてのアクティブラーニング項目が該当するが、本ゼミでは特に、専門的知識・技能を活用する能力、情報収集・分析力について強化およびそれを評価する。</p> <p>統計データを活用し現在も未解決な社会課題に対して、ゼミ全体で協同して情報収集・分析し若者としての視点を生かして解決案を策定することで論理的思考力・批判的思考力を養う。</p> <p>併せて、データを加工するためには専門的な知識・技能を用いなければならず、それらが仮に不足しているようであれば主体的に学修することで補い、それらの能力を適切な水準まで持つていく。</p> <p>ゼミのため、担当教員はあくまでもファシリテーターとして関与し、調査・研究は学生主体で行う。</p>	

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅣ（Seminar Ⅳ） 264046-14000					担当教員	中村 大輔 （ナカムラ ダイスケ）		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要

中村ゼミでは「会計を通じて企業を知る」をテーマとしている。特に企業が公表する有価証券報告書等の資料を用いることで、定量的・定性的にその企業の戦略とその成果を明らかにし、さらにはその将来像を見通すことができる。

そこで、本ゼミではゼミ生各々が自分の興味がある企業を選択し、その企業を1年間かけて詳細に分析を行う。そして年度末にはそれを卒業論文としてまとめることとする。こうしたなかで会計や形成分析という「専門的知識を用いて情報収集・分析をすることができる職業人」を育成する。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力を養う。

③ 授業の進め方・指示事項

各回の報告担当者か否かに関係なく、各自資料や文献等から疑問点や論点を考えてくること。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

「会計学1・2」、「財務会計1・2」「管理会計」、「経営分析」を履修することが望ましい。

⑤ 標準的な達成レベルの目安

- (i) 有価証券報告書の基本的な構造・内容が理解し、説明できる。
- (ii) 対象とする企業を分析した卒業論文を作成できる。

⑥ テキスト（教科書）

テキストは用いない。対象となる有価証券報告書を用いる。

⑦ 参考図書・指定図書

石野雄一(2005)『道具としてのファイナンス』日本実業出版社
青木茂男編著『要説 経営分析（五訂版）』森山書店

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合				60%	40%			100%
(i) 有価証券報告書の基本的な構造・内容が理解し、説明できる。				30%	20%			50%
(ii) 対象とする企業を分析した卒業論文を作成できる。				30%	20%			50%
(iii)								
フィードバックの方法	作成したレジюмеや卒業論文等はコメントを付ける							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
自信をもって「企業分析ができる」と言える学生を育てたい。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	全体説明	特になし	新聞の経済欄等を読むクセを付ける。	60分
2	資料の入手方法	特になし	新聞の経済欄等を読むクセを付ける。	60分
3	資料の入手	特になし	新聞の経済欄等を読むクセを付ける。	60分
4	有価証券報告書を読む① （全体の構造）	有価証券報告書	有価証券報告書の全体を見ておく	60分
5	有価証券報告書を読む② （企業の概況）	有価証券報告書	第一部【企業情報】第1【企業の概況】を読んでおく	60分
6	有価証券報告書を読む③ （事業の状況）	有価証券報告書	第一部【企業情報】第2【事業の状況】を読んでおく	60分
7	有価証券報告書を読む④ （設備の状況）	有価証券報告書	第一部【企業情報】第3【設備の状況】を読んでおく	60分
8	有価証券報告書を読む⑤ （提出会社の状況）	有価証券報告書	第一部【企業情報】第4【提出会社の状況】を読んでおく	60分
9	有価証券報告書を読む⑥ （経理の状況－概観）	有価証券報告書	第一部【企業情報】第5【経理の状況】を見ておく	60分

10	有価証券報告書を読む⑦ (経理の状況－損益計算書)	有価証券報告書	第一部【企業情報】第5【経理の状況】の(連結)損益計算書を見ておく	60分
11	有価証券報告書を読む⑧ (経理の状況－貸借対照表)	有価証券報告書	第一部【企業情報】第5【経理の状況】の(連結)貸借対照表を見ておく	60分
12	有価証券報告書を読む⑨ (経理の状況－株主資本等変動計算書)	有価証券報告書	第一部【企業情報】第5【経理の状況】の(連結)株主資本等変動計算書を見ておく	60分
13	有価証券報告書を読む⑩ (経理の状況－キャッシュ・フロー計算書)	有価証券報告書	第一部【企業情報】第5【経理の状況】の(連結)キャッシュ・フロー計算書を見ておく	60分
14	分析対象企業の発表	有価証券報告書	分析対象企業を理由と共に報告する準備をする。	60分
15	前期まとめ	特になし	夏休みに行う分析の資料集めをする	60分
16	後期全体説明	特になし	収集した資料と分析結果をまとめておく	60分
17	収益性分析	有価証券報告書	対象企業の収益性を分析する	60分
18	安全性分析	有価証券報告書	対象企業の安全性を分析する	60分
19	生産性分析	有価証券報告書	対象企業の生産性を分析する	60分
20	成長性分析	有価証券報告書	対象企業の成長性を分析する	60分
21	時系列分析	有価証券報告書	対象企業の収益性・安全性・生産性・成長性を時系列で見ておく	60分
22	業界平均との比較	有価証券報告書	対象企業と業界平均との差を見ておく	60分
23	卒業論文の作成・発表①	有価証券報告書 原稿	データを表やグラフにまとめる	60分
24	卒業論文の作成・発表②	有価証券報告書 原稿	定性的データを収集する	60分
25	卒業論文の作成・発表③	有価証券報告書 原稿	報告書の分析視角から構成を決める	60分
26	卒業論文の作成・発表④	有価証券報告書 原稿	報告書の本論を執筆する。	60分

27	卒業論文の作成・発表⑤	有価証券報告書 原稿	報告書の本論を執筆する。	60分
28	報告書の提出	有価証券報告書 原稿	報告書を完成させる。	60分
29	報告書発表会①	有価証券報告書 原稿	各自の報告書を発表するための原稿作り	60分
30	報告書発表会②	有価証券報告書 原稿	各自の報告書を発表するための原稿作り	60分

⑪ アクティブラーニングについて

協同学修型 AL を採用する。自分が分析する企業の有価証券報告書を読み、レジュメにまとめて報告する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性

令和3(2021)年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅣ (Seminar Ⅳ) 264046-14000					担当教員	西俣 先子 (ニシマタ ヒロコ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 知識定着・確認型 AL / 協同学修型 AL / 課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要									
環境・農業・地域の問題について幅広く理解するとともに、ゼミナールの学生の興味あるテーマを掘り下げていく。文献の輪読、必要があれば、インタビュー調査なども行い、知見を得る。報告書または論文を執筆する。修得した能力を活用し、問題提起等を行う応用力を身につける科目である。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力									
③ 授業の進め方・指示事項									
報告等の担当になった場合、準備を行うこと。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
(i) 環境・農業・地域の問題について自分なりの視点を持つことができる。 (ii) 環境・農業・地域の問題について他人に説明できるようになる。									
⑥ テキスト (教科書)									
テキスト指定なし。ゼミナールの学生の意見を聞いて指定する。 必要に応じて資料を配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
大学図書館の西俣先子の推薦図書のコーナーを確認すること。									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合				50% *卒業 論文 (または報告 書)		50% *議論 や発表 など授 業への 参加		100%
(i) 環境・農業・地域の問題について自分なりの視点を持つことができる。				25%		25%		50%
(ii) 環境・農業・地域の問題について他人に説明できるようになる。				25%		25%		50%
フィードバックの方法	卒業論文はチェックし、コメントする。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	オリエンテーション		シラバスを熟読し授業の目的を理解したうえで授業に参加する	10分
2	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う	60分
3	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う	60分
4	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う	60分
5	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う	60分
6	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う	60分

7	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う	60分
8	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う	60分
9	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う	60分
10	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う	60分
11	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う	60分
12	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う	60分
13	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う	60分
14	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う	60分
15	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う	60分
16	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分
17	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分
18	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分
19	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分
20	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分
21	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分
22	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分
23	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分
24	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分
25	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分

26	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分
27	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分
28	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分
29	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分
30	取り組んでいるテーマに関する調査・研究		各自担当部分の調査・調査を行う 卒業論文・報告書の執筆	90分

⑪ アクティブラーニングについて

ゼミナールで決めたテーマについてグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行い、考察を深める。必要に応じてフィールドワークも実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅣ (Seminar Ⅳ) 264046-14000					担当教員	牧野 智一 (マキノ トモカズ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 知識定着・確認型 AL / 協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要									
<p>牧野ゼミナールⅣでは、ゼミナールⅢで学修した財政の知識に基づき、ゼミ生自身が関心を持つ財政や経済に関するテーマを設定し、個別にそのテーマについて調査・研究を行なう。</p> <p>また、ゼミコンパやゼミ旅行など様々なイベントを学生諸君に企画してもらい、ゼミ生同士が大学を卒業した後もお互いに支え合えるような生涯の友人関係を構築できることを目指します。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
ゼミ生による発表形式で授業を行う。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「財政学」「ゼミナールⅢ」の知識を有すること。									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
<p>(i) 卒業論文のテーマ設定と構成をしっかりと作成できる。</p> <p>(ii) 卒業論文を論理的に作成できる。</p> <p>(iii) 経済について考察することができる。</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
特になし。各自の卒業論文のテーマに沿った図書を用いること。									
⑦ 参考図書・指定図書									
<p>竹内信仁編(2013)『スタンダードミクロ経済学』中央経済社</p> <p>竹内信仁編(2013)『スタンダードマクロ経済学』中央経済社</p> <p>竹内信仁編著(2007)『スタンダード財政学 第2版』中央経済社</p> <p>『図説日本の財政』（各年度版）</p>									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合				50%	30%	20%		100%
(i) 卒業論文のテーマ設定と構成をしっかりと作成できる。				10%	10%	6%		26%
(ii) 卒業論文を論理的に作成できる。				20%	10%	6%		36%
(iii) 経済について考察することができる。				20%	10%	8%		38%
フィードバックの方法	卒業論文の内容のチェックとアドバイスを適宜行う。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL を採用する。ゼミ生による調査・研究の内容報告やディスカッションを行い、学修効果の向上に活用する。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	オリエンテーション	筆記用具	卒業論文のテーマとなりうる経済や社会情勢の情報収集	60分以上
2	卒業論文のテーマ設定に向けた議論	筆記用具	卒業論文のテーマの方向性の検討	60分以上
3	卒業論文のテーマ案作成のための資料収集	筆記用具	卒業論文のテーマの方向性に沿った資料収集	60分以上
4	卒業論文のテーマ案の作成	筆記用具	卒業論文のテーマ案を2, 3個考える	60分以上
5	卒業論文のテーマ案についての議論	筆記用具	考えた卒業論文のテーマ案の内容整理	60分以上
6	卒業論文のテーマ設定と全体報告	筆記用具	全体報告のための資料の作成	60分以上
7	卒業論文のテーマに関連する資料収集等	筆記用具	構成の作成のための資料収集等	60分以上
8	卒業論文の構成の作成に向けた議論	筆記用具	卒業論文の構成案の作成のための設定したテーマの課題の考察	60分以上

9	卒業論文の構成案の作成	筆記用具	考察した課題に基づく卒業論文の構成案の作成	60分以上
10	卒業論文の構成案についての議論	筆記用具	議論の結果を受けての構成案の方向性の検討	60分以上
11	卒業論文の構成案の修正のための資料収集	筆記用具	卒業論文の構成案の修正のための資料収集	60分以上
12	卒業論文の構成案の修正	筆記用具	卒業論文の構成の修正案の作成	60分以上
13	卒業論文の構成の修正案についての議論	筆記用具	議論の結果を受けての構成案の再検討	60分以上
14	卒業論文の構成案の確定に向けた議論	筆記用具	卒業論文の構成案の確定と資料収集	60分以上
15	卒業論文の構成案の確定と全体報告	筆記用具	全体報告のための資料の作成	60分以上
16	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の1程度まで作成	60分以上
17	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の1程度までの修正と加筆	60分以上
18	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の2程度まで作成	60分以上
19	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の2程度までの修正と加筆	60分以上
20	中間報告会と議論	筆記用具	中間報告のための資料の作成	60分以上
21	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の3程度まで作成	60分以上
22	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の3程度までの修正と加筆	60分以上
23	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の4程度まで作成	60分以上
24	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の4程度までの修正と加筆	60分以上
25	中間報告会と議論	筆記用具	中間報告のための資料の作成	60分以上
26	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の5程度まで作成	60分以上
27	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文の全体の6分の5程度までの修正と加筆	60分以上

28	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文全体を作成	60分以上
29	卒業論文の作成と個別論文指導	筆記用具	卒業論文全体の修正と加筆	60分以上
30	卒業論文の確認と提出	筆記用具	卒業論文の完成	60分以上

⑪ アクティブラーニングについて				
知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL を採用する。ゼミ生によるテキストの内容報告やディスカッションを行い、学修効果の向上に活用する。				

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の概要				
実務経験と授業科目との関連性				

令和3(2021)年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅣ (SeminarⅣ) 264046-14000					担当教員	喬 雪氷 (キョウ セツヒョウ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目 / 課題解決型 AL / 外部講師招聘科目								

① 授業のねらい・概要									
本ゼミナールは、地域活性化に貢献することを基本とし、各自の課題発見能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力の3つを身に付けることを目標とする。実践的な活動として、1つ目は、株式会社きものブレインのブランド商品の販売戦略をシミュレーションする。2つ目は、十日町を拠点に「きもの文化村」構想の企画案を展開してみる。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢/職業人として通用する能力/コミュニケーション能力/専門的知識・技能を活用する能力/情報収集・分析力を育成する									
③ 授業の進め方・指示事項									
基本的にゼミ生による発表形式で授業を行う。ゼミで取り組む課題を設定し、各自分担役割を決め、資料収集・分析、企画書作成、調査研究報告書の作成、成果の発表というプロセスを経て授業を進めていく。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
「ゼミナールⅠ前・後」「ゼミナールⅡ」									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
(i) 課題を発見し情報収集する能力 (ii) 企画書を作成し実行する能力 (iii) 報告書を作成し発表する能力									
⑥ テキスト(教科書)									
指定なし。必要に応じてレジュメを配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
必要に応じて関連した本を紹介する。									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法									
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計	

総合評価割合			10%		50%	40%		100%
(i) 課題を発見し情報収集する能力			10%		10%	10%		30%
(ii) 企画書を作成し実行する能力					20%	20%		40%
(iii) 報告書を作成し発表する能力					20%	10%		30%
フィードバックの方法	授業内で、各自の発表に対して全員で討議することにより企画書と報告書を再検討する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）

ゼミでは、「一期一会」という言葉が表すように、御縁を大切に、青春時代の1年間を仲間と一緒に楽しく成長することを目指しましょう。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	オリエンテーション、自己紹介、課題設定についての討議	筆記用具	コラボしたい課題を考えてくる	60分
2	自ら興味を持つ課題の資料を基に、スピーチを行う	筆記用具、必要な資料・PC	スピーチの準備	60分
3	情報・資料収集・発表	筆記用具、必要な資料・PC	各自役割分担した内容について調査する	60分
4	情報・資料収集・発表	筆記用具、必要な資料・PC	各自役割分担した内容について調査する	60分
5	情報・資料収集・発表	筆記用具、必要な資料・PC	各自役割分担した内容について調査する	60分
6	企画書作成	筆記用具、必要な資料・PC	企画書作成	60分
7	企画書作成	筆記用具、必要な資料・PC	企画書作成	60分
8	企画書を実行するシミュレーション	筆記用具、必要な資料・PC	企画書作成	60分
9	企画書を実行するシミュレーション	筆記用具、必要な資料・PC	企画書作成	60分
10	企画書の再検討&企業との打ち合わせ	筆記用具、必要な資料・PC	企画書作成	60分

11	企画書の再検討&企業との打ち合わせ	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書作成	60分
12	企画書の再検討&企業との打ち合わせ	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書作成	60分
13	企画書の再検討&企業との打ち合わせ	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書作成	60分
14	企画書の再検討&企業との打ち合わせ	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書作成	60分
15	半期の振り返り	筆記用具、 必要な資料・PC	各自発表の準備	60分
16	夏休みを振り返り、前期のまとめと後期の予定報告	筆記用具、 必要な資料・PC	各自の発表	60分
17	悠久祭打ち合わせ&企画書作成	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書作成	60分
18	悠久祭打ち合わせ&企画書作成	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書作成	60分
19	悠久祭打ち合わせ&企画書作成	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書作成	60分
20	悠久祭準備活動	筆記用具、 必要な資料・PC	企画書の実行	60分
21	悠久祭振り返り、地域活性化発表会に向けたプレゼン資料の作成と発表練習	筆記用具、 必要な資料・PC	プレゼン資料作成	60分
22	地域活性化発表会に向けたプレゼン資料の作成と発表練習	筆記用具、 必要な資料・PC	プレゼン資料作成	60分
23	地域活性化発表会に向けたプレゼン資料の作成と発表練習	筆記用具、 必要な資料・PC	プレゼン資料作成	60分
24	地域活性化発表会の練習	筆記用具、 必要な資料・PC	プレゼン資料作成	60分
25	活動報告書指導	筆記用具、 必要な資料・PC	活動報告書作成	60分
26	活動報告書指導	筆記用具、 必要な資料・PC	活動報告書作成	60分
27	活動報告書指導	筆記用具、 必要な資料・PC	活動報告書作成	60分
28	活動報告書指導	筆記用具、 必要な資料・PC	活動報告書作成	60分

29	活動報告書指導	筆記用具、 必要な資料・PC	活動報告書作成	60分
30	一年間の振り返り	筆記用具、 必要な資料・PC	活動報告書作成	60分

⑪ アクティブラーニングについて				
授業内で、各自の発表に対して全員で討議することにより企画書と報告書を再検討する。必要に応じて、インタビュー調査・助言・指導を行う。				

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の概要				
国際コンサルティング業務の経験を持ち、中国中央テレビ局ドキュメンタリー制作会社の依頼より、日本での撮影取材交渉に携わるほか、中日企業の業務取引提携の斡旋なども行った。				
実務経験と授業科目との関連性				
課題設定、企業ヒアリング、企画書作成などあらゆる面において、国際コンサルティングの経験を活かすことができる。				